

証券コード：6841
横河電機株式会社

2026年3月期 決算説明会

2026年5月7日

目次

1. 2026年3月期 連結決算の概要 P. 3

取締役 執行役 経理財務本部長 中嶋 倫子

2. 決算補足資料 P. 20

四半期別実績／営業外・特別損益

セグメント別受注残推移／制御サブセグメント別受注残推移

制御ビジネス規模別受注高推移

制御ビジネスモデル別受注高推移

研究開発費・減価償却費・設備投資

貸借対照表／株価の状況

3. GS2028達成に向けた取り組み P. 31

取締役 代表執行役社長 重野 邦正

2026年3月期 連結決算の概要

対象期間：2025年4月1日～2026年3月31日

中嶋 倫子

取締役 執行役 経理財務本部長

2026年5月7日

■ FY25実績：増収減益

サマリー	受注は、特に測定器事業の大幅伸長により増加
	売上は、前期までに受注した大型案件の売上寄与等に伴い増収
	営業利益は、一過性の要因を含む粗利率の悪化などにより減益
セグメント別	制御 増収減益
	測定器 増収増益
	新事業他 前期並み

■ FY26通期業績予想：事業環境に不透明感はあるものの増収増益

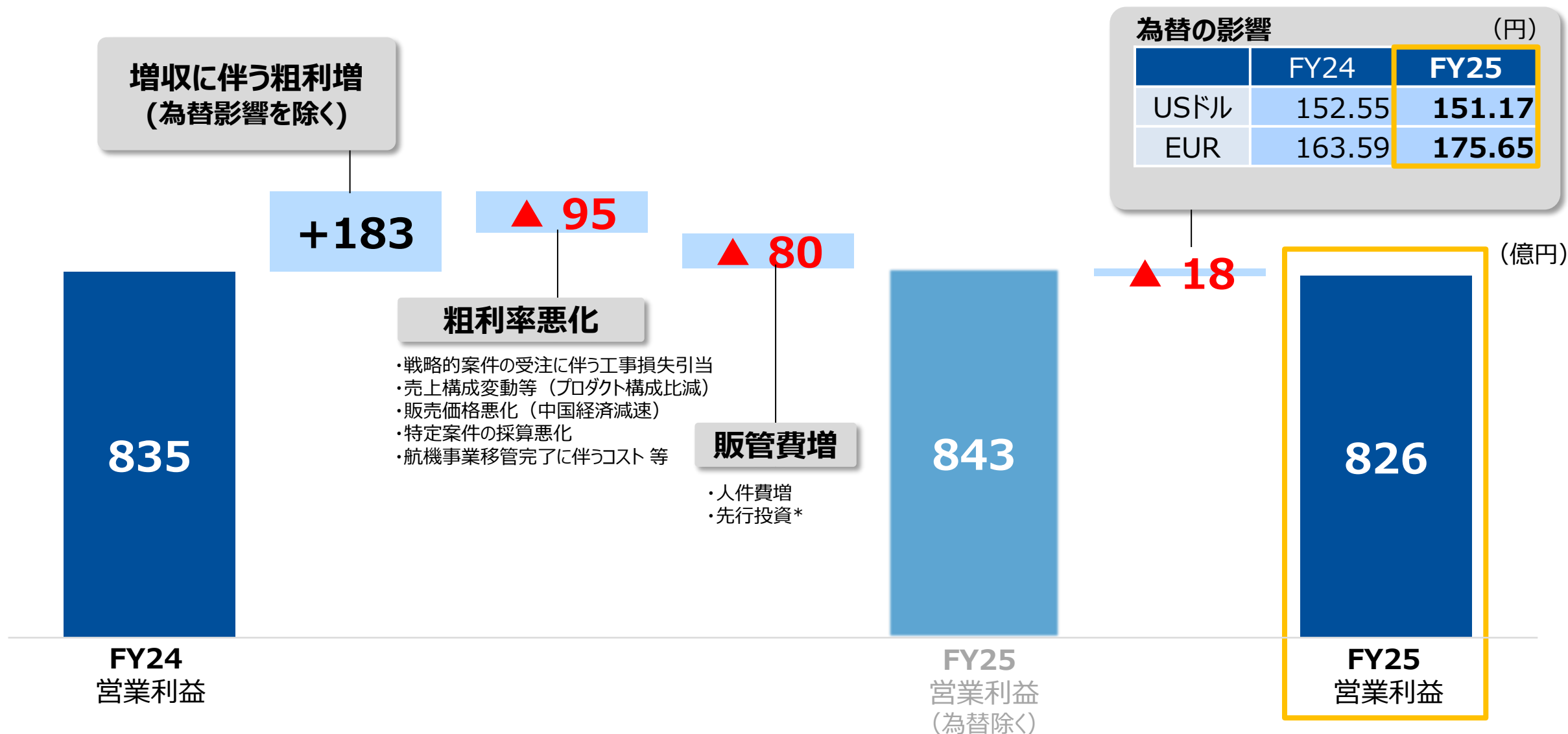
■ 株主還元（予定）：4期連続の増配・自己株式取得

決算サマリー（前年同期比）

- ◆受注：複数の大口案件の獲得（制御事業）やAIデータセンター関連の需要増加（測定器事業）等に伴い**増加**（除・為替影響：+153億円、+2.5%）
- ◆売上：豊富な受注残を背景に**増収**（除・為替影響：+385億円、+6.8%）
- ◆営業利益：主に制御事業の一過性の要因を含む粗利率の悪化などにより**減益**（除・為替影響：+8億円、+1.0%）

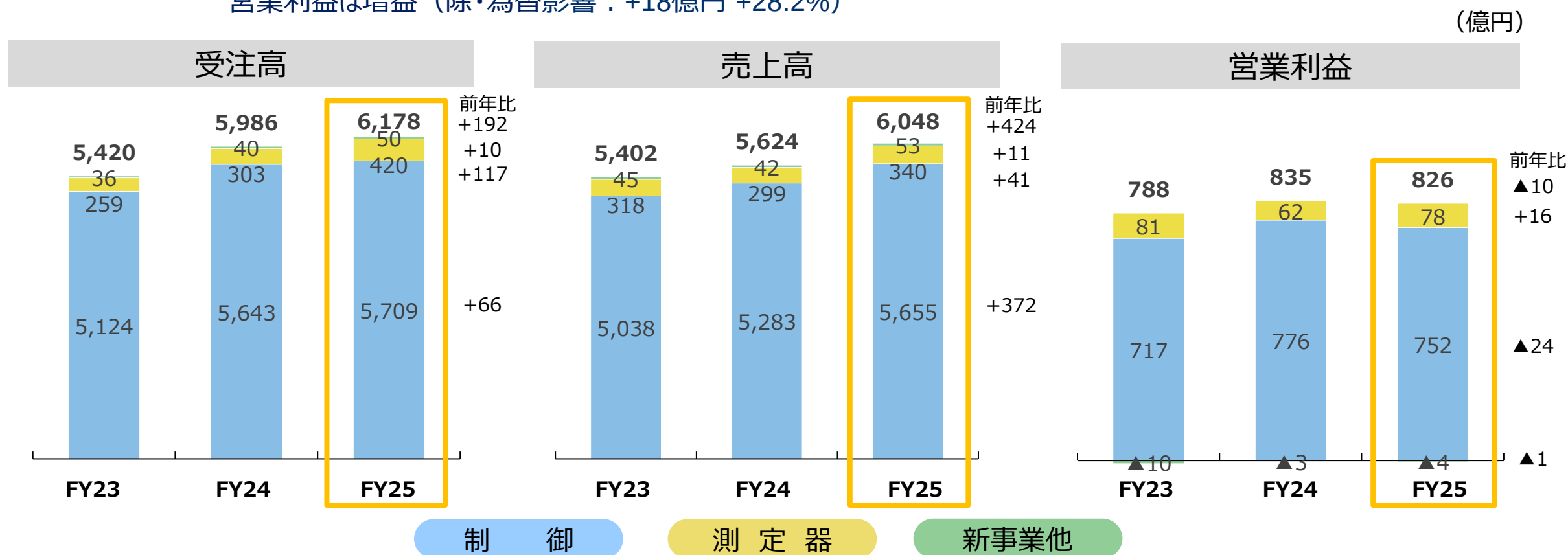
	FY24	FY25	差 異	増減率	為替影響	(億円)
受 注 高	5,986	6,178	+192	+3.2%	+40	
売 上 高	5,624	6,048	+424	+7.5%	+39	
営 業 利 益	835	826	▲10	▲1.2%	▲18	
R O S (%)	14.9	13.6	▲1.2pt	—	—	
経 常 利 益	854	843	▲11	▲1.3%	▲15	
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	521	581	+60	+11.5%	▲15	
為替レート	1米ドル=	151.17円	▲1.38円	—	—	

営業利益分析（前年同期比）



セグメント別 受注・売上・営業利益

- ◆制御事業 : 受注は増加 (除・為替影響 : +31億円 +0.5%)
 売上は増収 (除・為替影響 : +336億円 +6.4%)
 営業利益は主に一過性の要因を含む粗利率の悪化などにより減益 (除・為替影響 : ▲8億円 ▲1.1%)
- ◆測定器事業 : 受注は大幅に増加、売上は増収 (除・為替影響 : 受注+113億円 +37.4%、売上+38億円 +12.7%)
 営業利益は増益 (除・為替影響 : +18億円 +28.2%)



制御地域別 受注・売上高

- ◆中東の前期の大口受注の反動がありながらも、主に日本での大口案件の獲得等に伴い、受注は増加
- ◆受注：+31億円、+0.5%（除・為替影響） 売上：+336億円、+6.4%（除・為替影響）

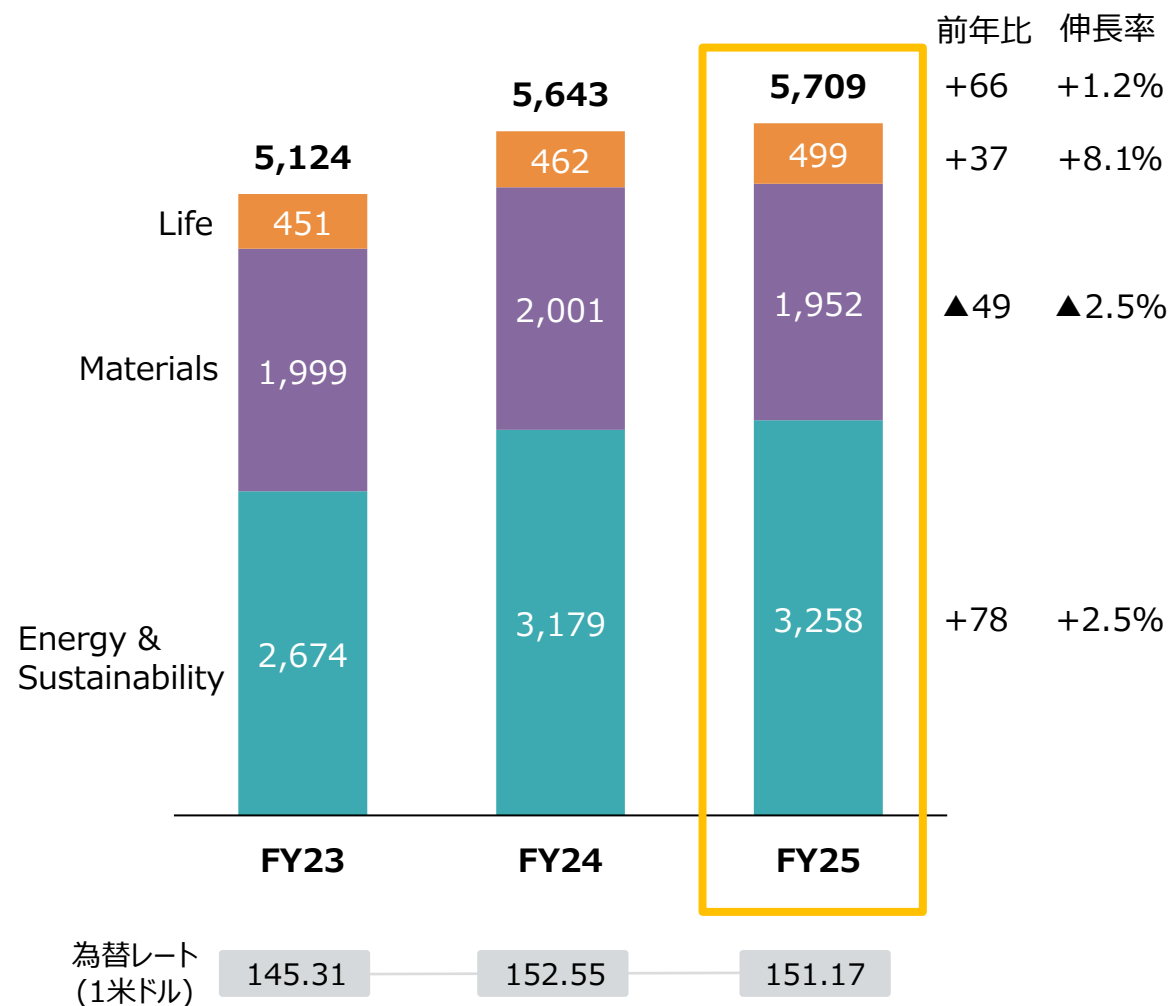
（億円）

受注高	FY24 (A)	FY25 (B)	前年同期比 (B-A)
日本	1,388	1,540	+152
アジア	1,657	1,661	+4
（東南アジア・ 極東）	(792)	(810)	(+18)
（中国）	(571)	(555)	(▲16)
（インド）	(294)	(297)	(+3)
欧州・CIS	606	608	+3
中東・アフリカ	1,313	1,177	▲136
北米	497	517	+20
中南米	182	205	+23
海外小計	4,255	4,169	▲86
合計	5,643	5,709	+66
為替レート 1米ドル＝	152.55円	151.17円	▲1.38円

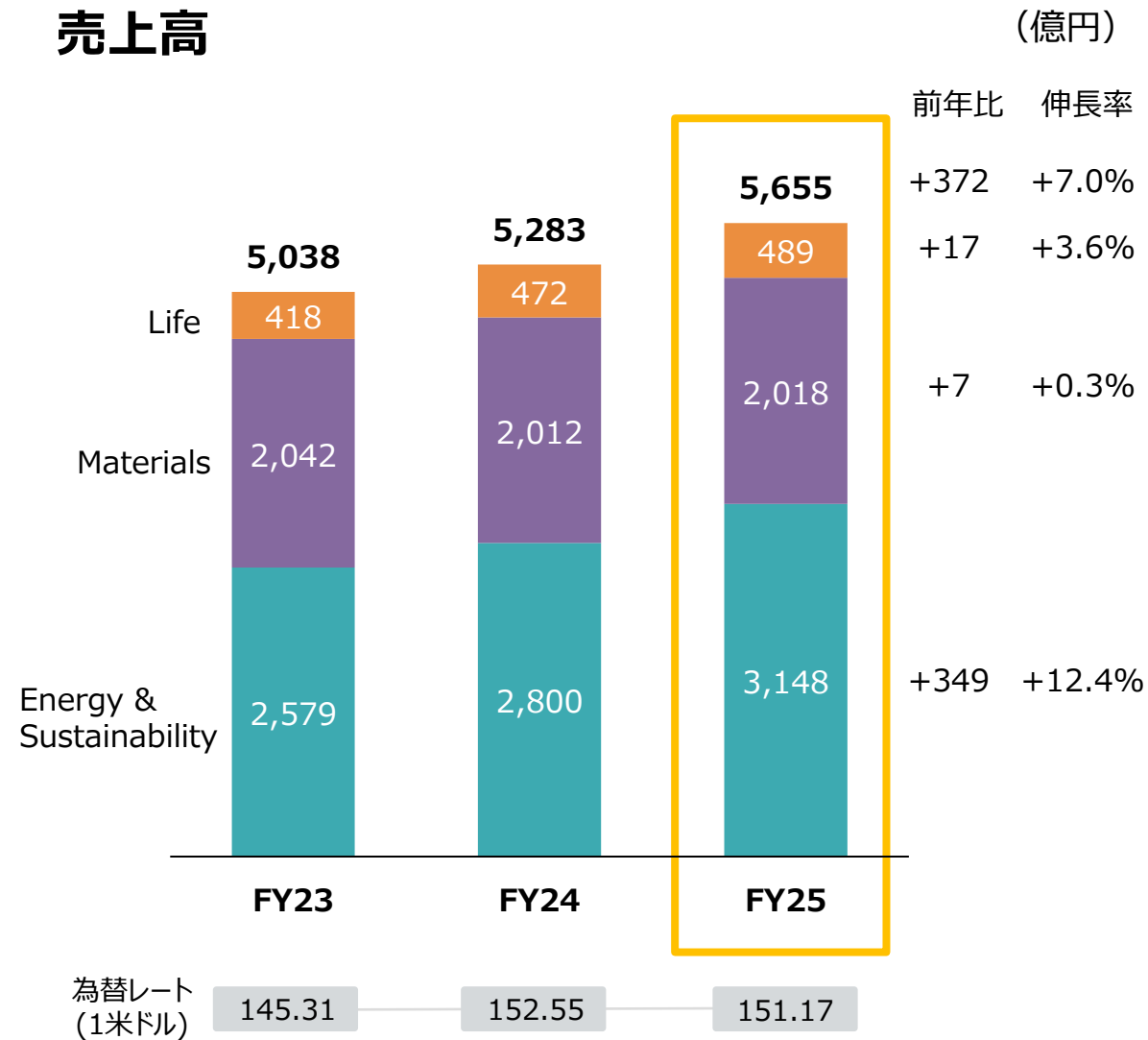
売上高	FY24 (A)	FY25 (B)	前年同期比 (B-A)
日本	1,355	1,515	+160
アジア	1,735	1,642	▲92
（東南アジア・ 極東）	(810)	(798)	(▲12)
（中国）	(640)	(567)	(▲73)
（インド）	(284)	(277)	(▲7)
欧州・CIS	526	636	+110
中東・アフリカ	968	1,153	+185
北米	504	516	+11
中南米	194	193	▲1
海外小計	3,928	4,140	+212
合計	5,283	5,655	+372
為替レート 1米ドル＝	152.55円	151.17円	▲1.38円

制御サブセグメント別 受注・売上高

受注高



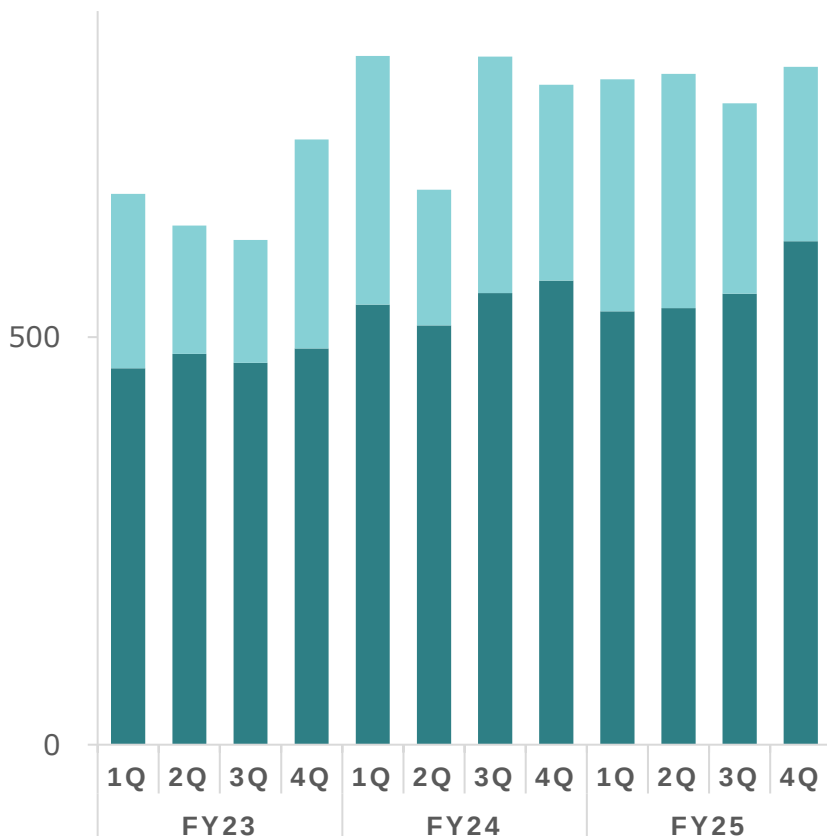
売上高



制御サブセグメント 規模別受注

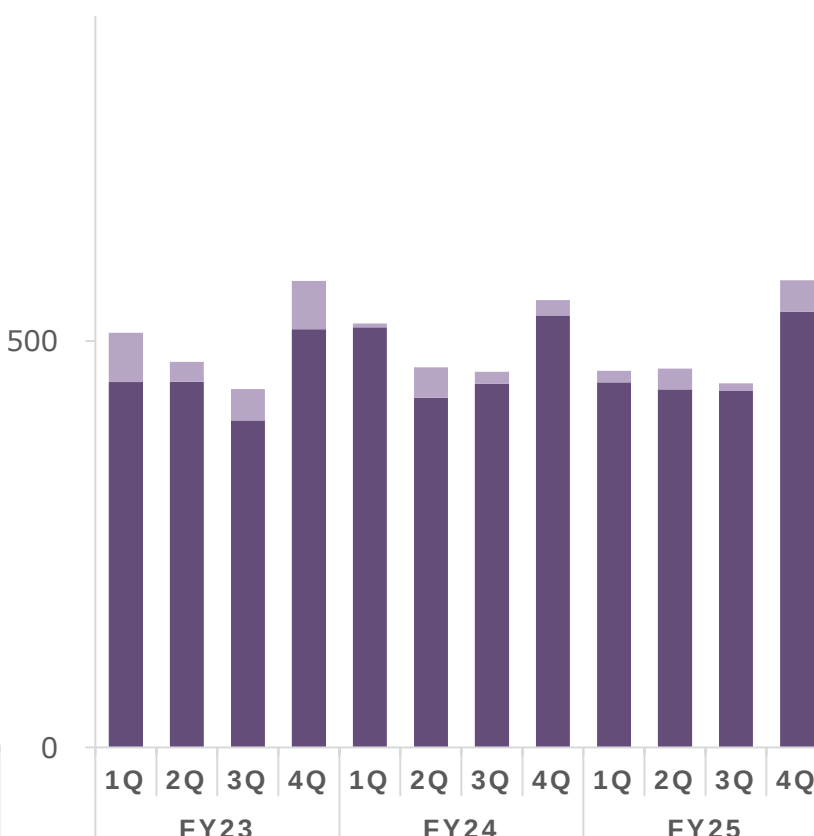
Energy & Sustainability

■ 小口 ■ 大口



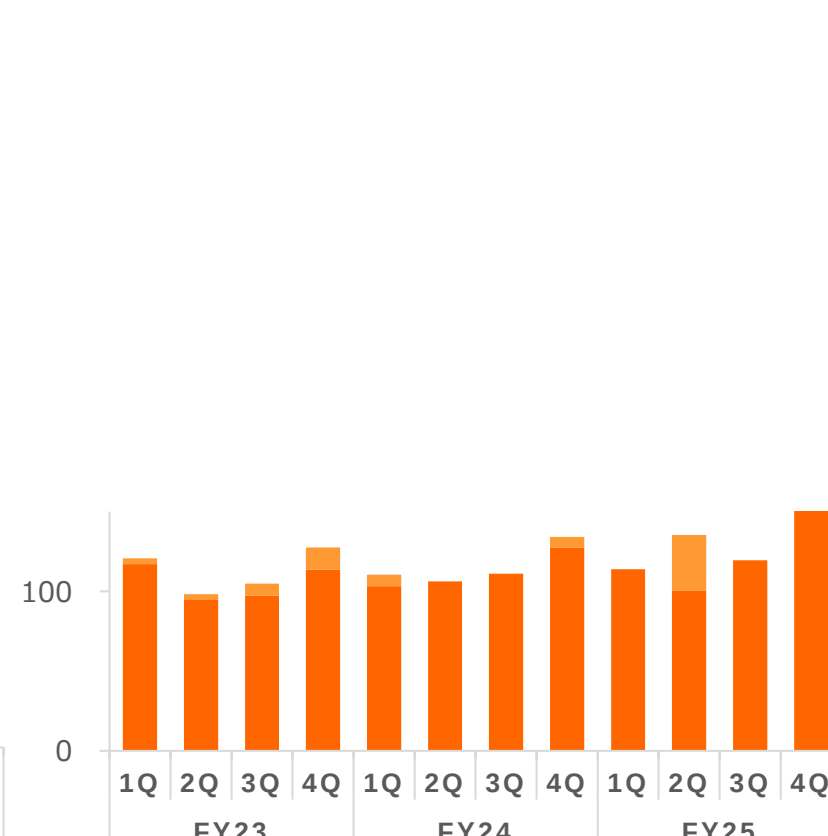
Materials

■ 小口 ■ 大口



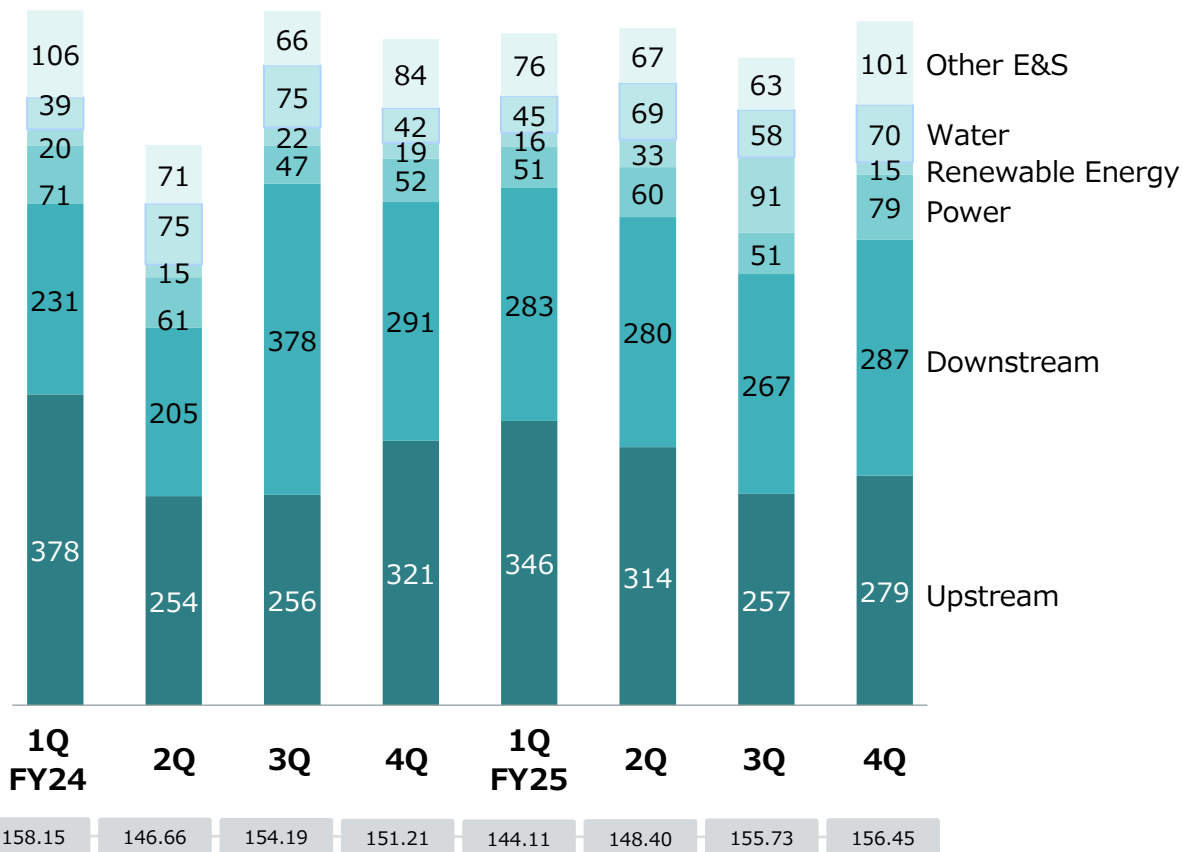
Life

■ 小口 ■ 大口

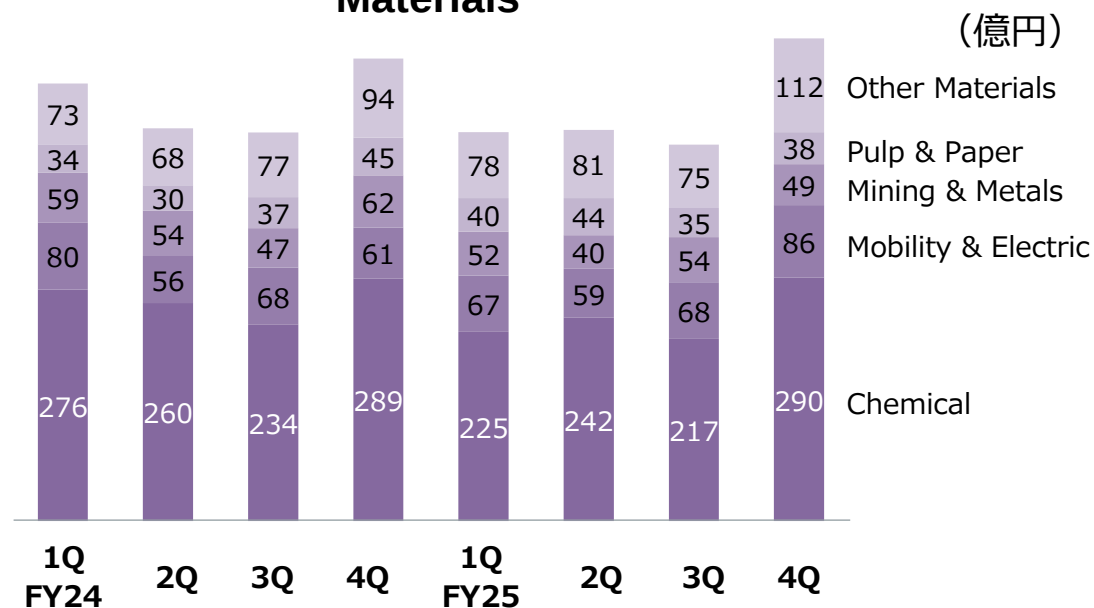


制御業種別 受注

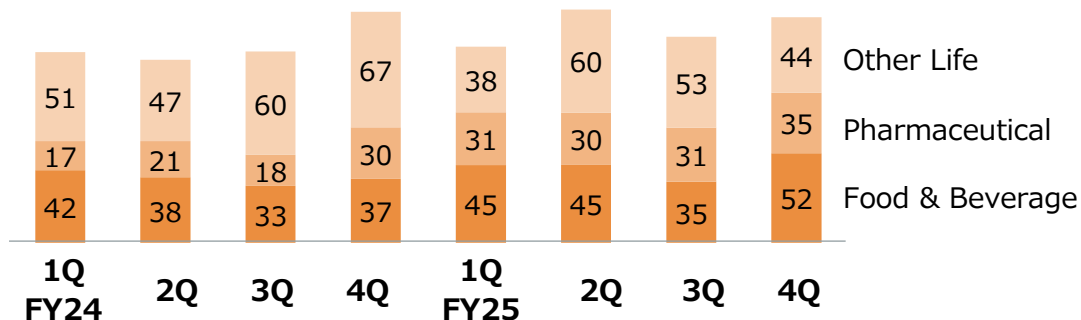
Energy & Sustainability



Materials



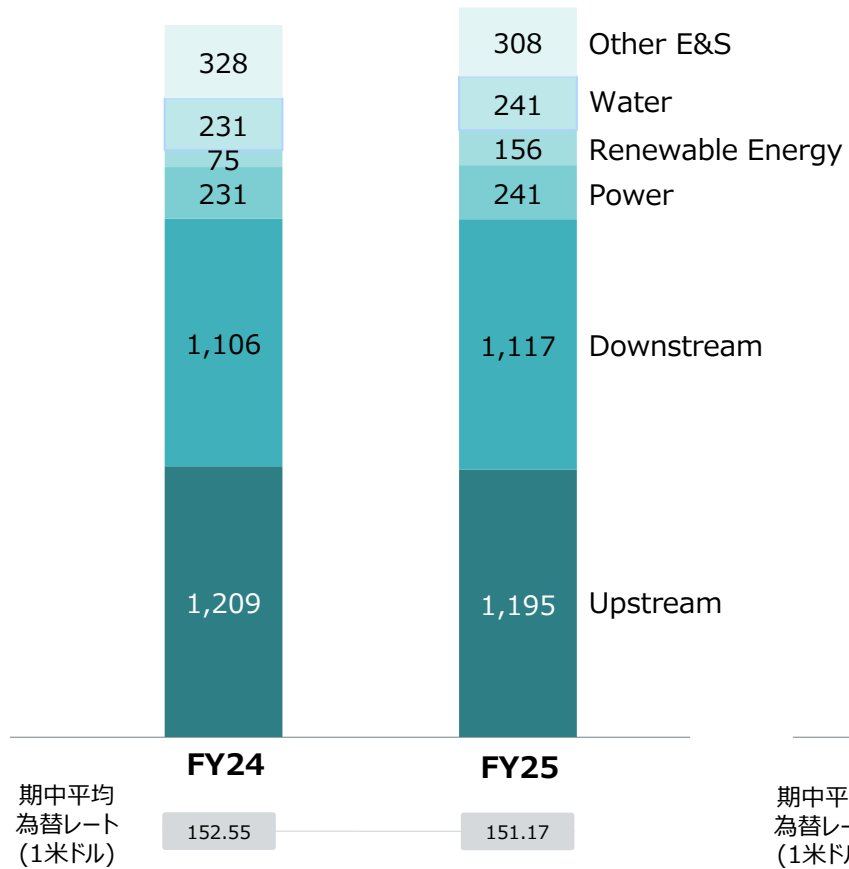
Life



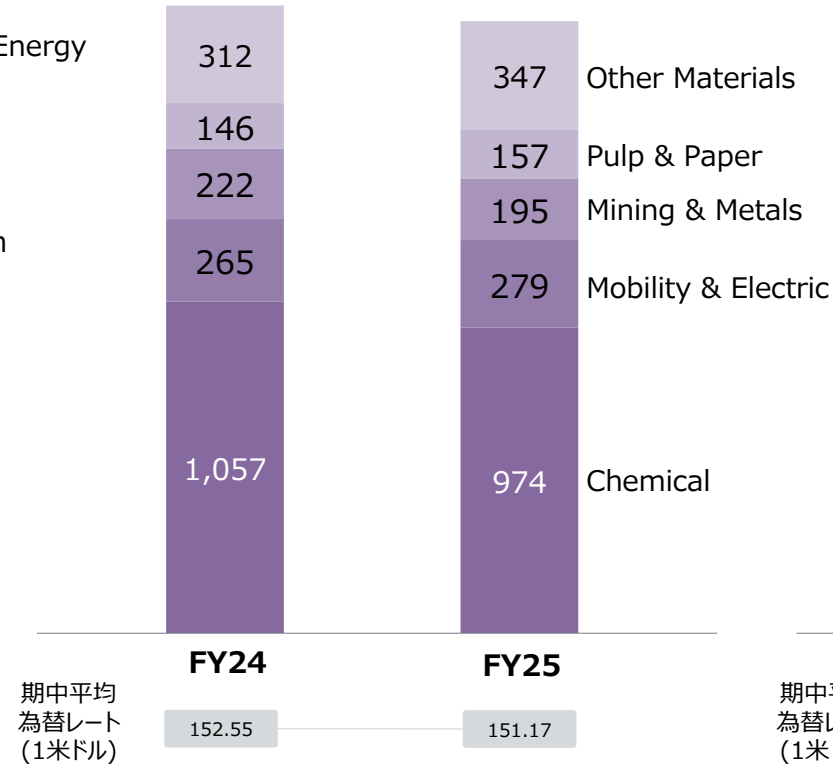
制御業種別 受注（年間）

（億円）

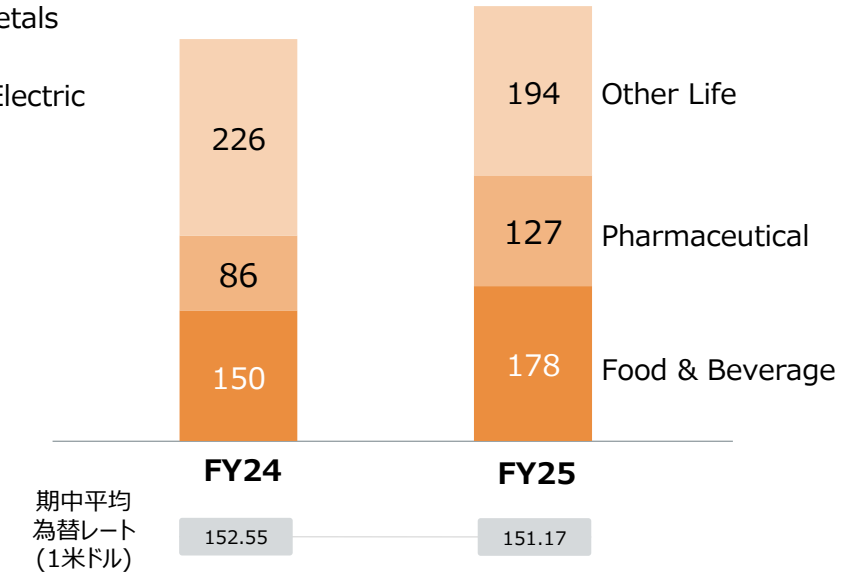
Energy & Sustainability



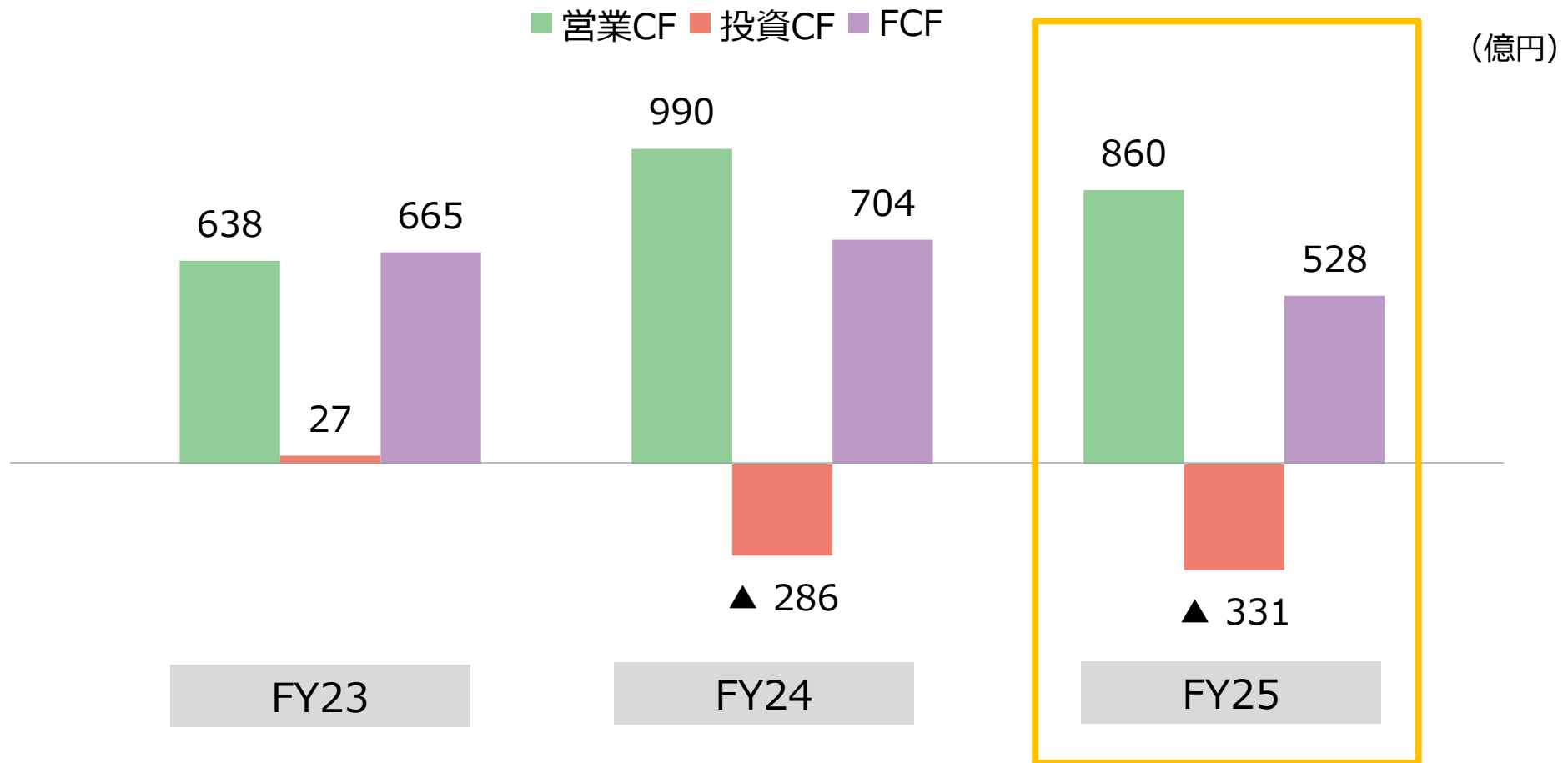
Materials



Life



キャッシュ・フロー



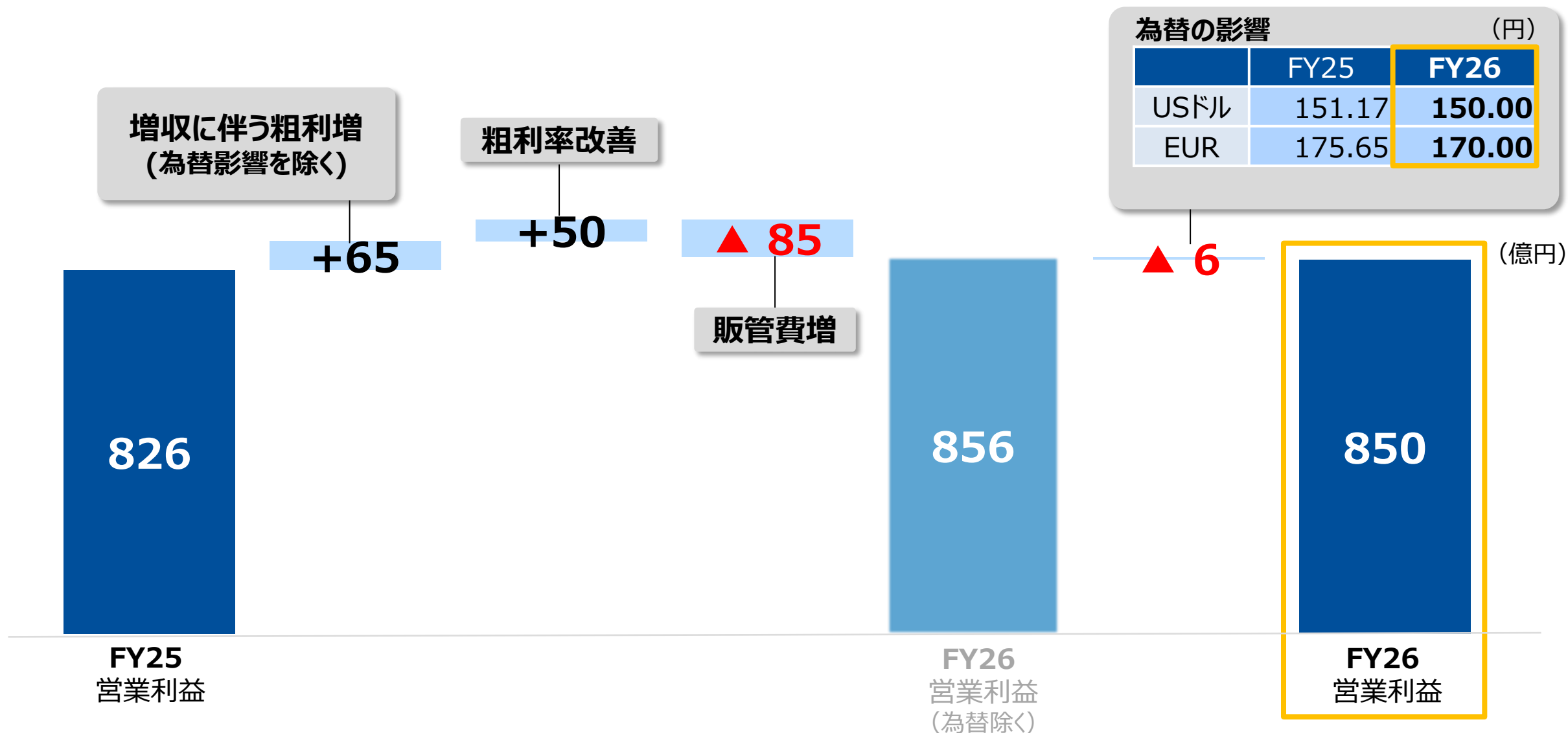
FY26業績予想

- ◆受注は、短期的には中東情勢の影響を受ける懸念はあるものの、堅調なエネルギー需要を背景にお客様の活発な投資意欲は継続していることから**増加**（除・為替影響：+313億円 +5.1%）
- ◆売上は、中東情勢の影響も織り込み、**増収は限定的**（除・為替影響：+142億円 +2.4%）
- ◆営業利益は、主に増収により**増益**

(億円)	FY25 (A)	FY26予想 (B)	前年比 (B-A)	伸長率 (B/A-1)	前年比 (除・為替影響)	伸長率 (除・為替影響)
受 注 高	6,178	6,450	+272	+4.4%	+313	+5.1%
売 上 高	6,048	6,150	+102	+1.7%	+142	+2.4%
営 業 利 益	826	850	+24	+3.0%	+30	+3.7%
R O S (%)	13.6	13.8	+0.2pt	—		
経 常 利 益	843	850	+7	+0.9%		
税 引 前 利 益	789	850	+61	+7.7%		
法 人 税 等	209	265	+56	+26.8%		
親会社株主に帰属 する当期純利益	581	585	+4	+0.7%		
EPS(円)	227.72	229.75	+2.03	—		
為替レート	1米ドル=	150.00円	▲1.17円	—		

※当社は自己株式の取得について決議しました。（取得期間：2026年5月8日～2026年9月末日）
FY26予想における「EPS(円)」について、自己株式の取得の影響を考慮していません。
したがって、今後の自己株式取得の状況により、変動する可能性があります。
当該自己株式の取得については、本資料P19をご参照ください。

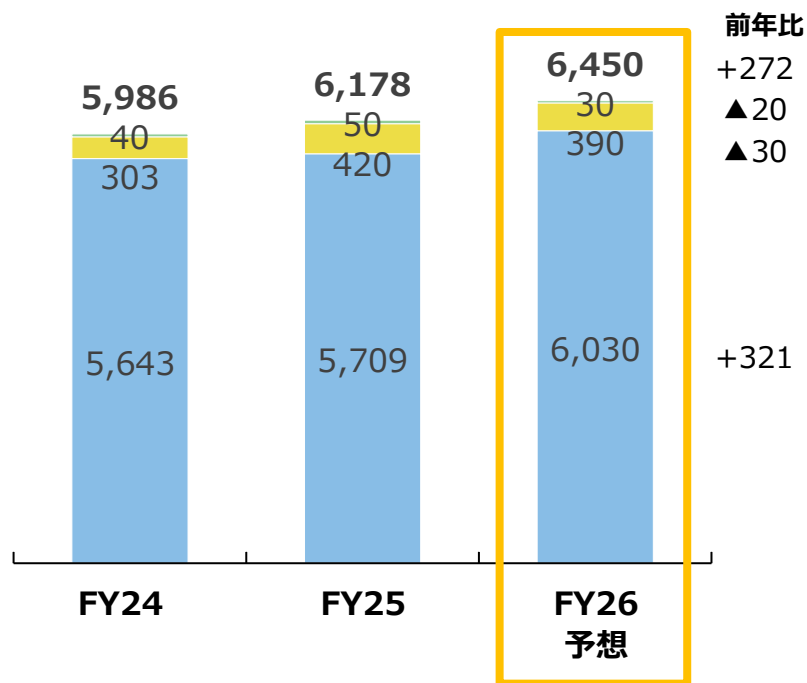
営業利益分析 予想



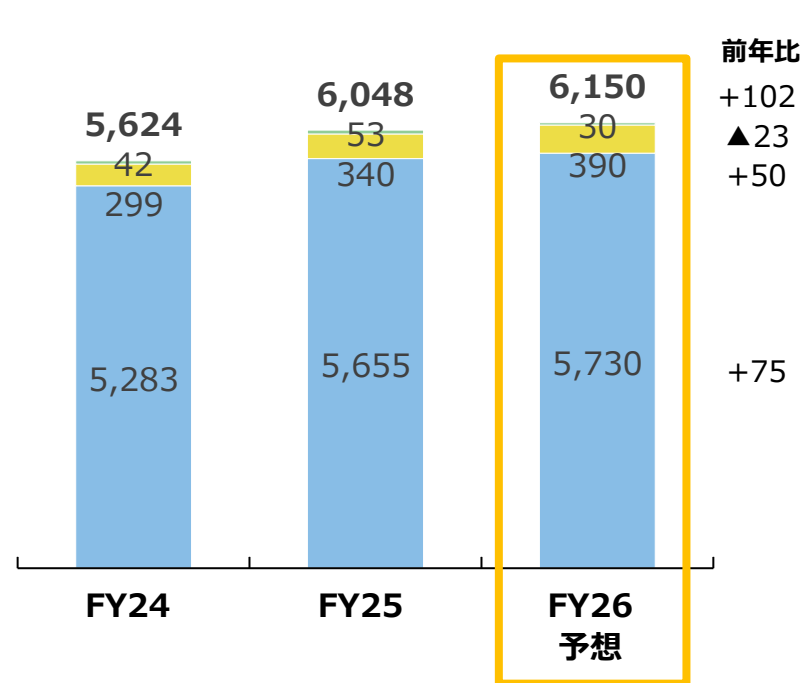
セグメント別 受注・売上・営業利益 予想

(億円)

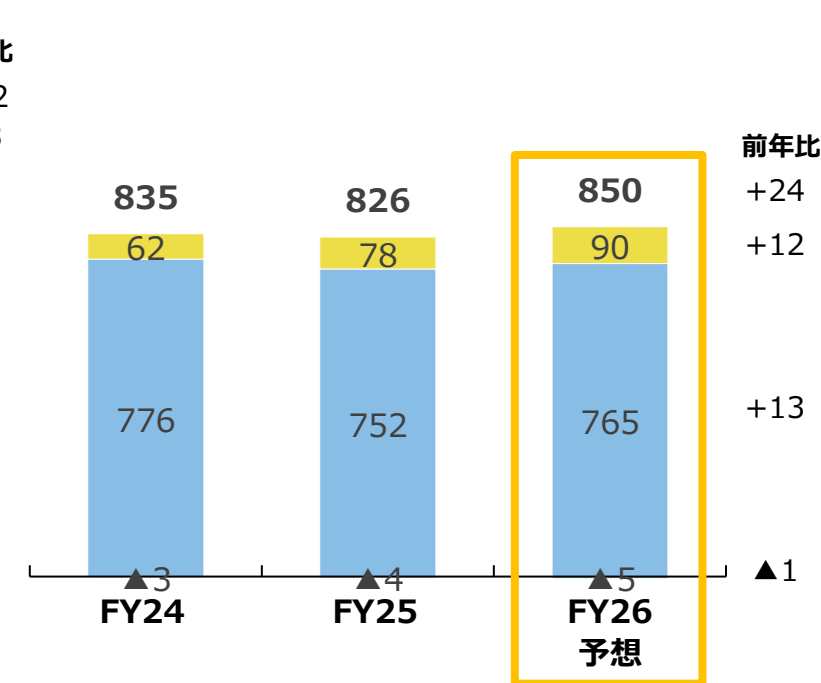
受注高



売上高



営業利益



制 御

測 定 器

新事業他

制御地域別 受注・売上高 予想

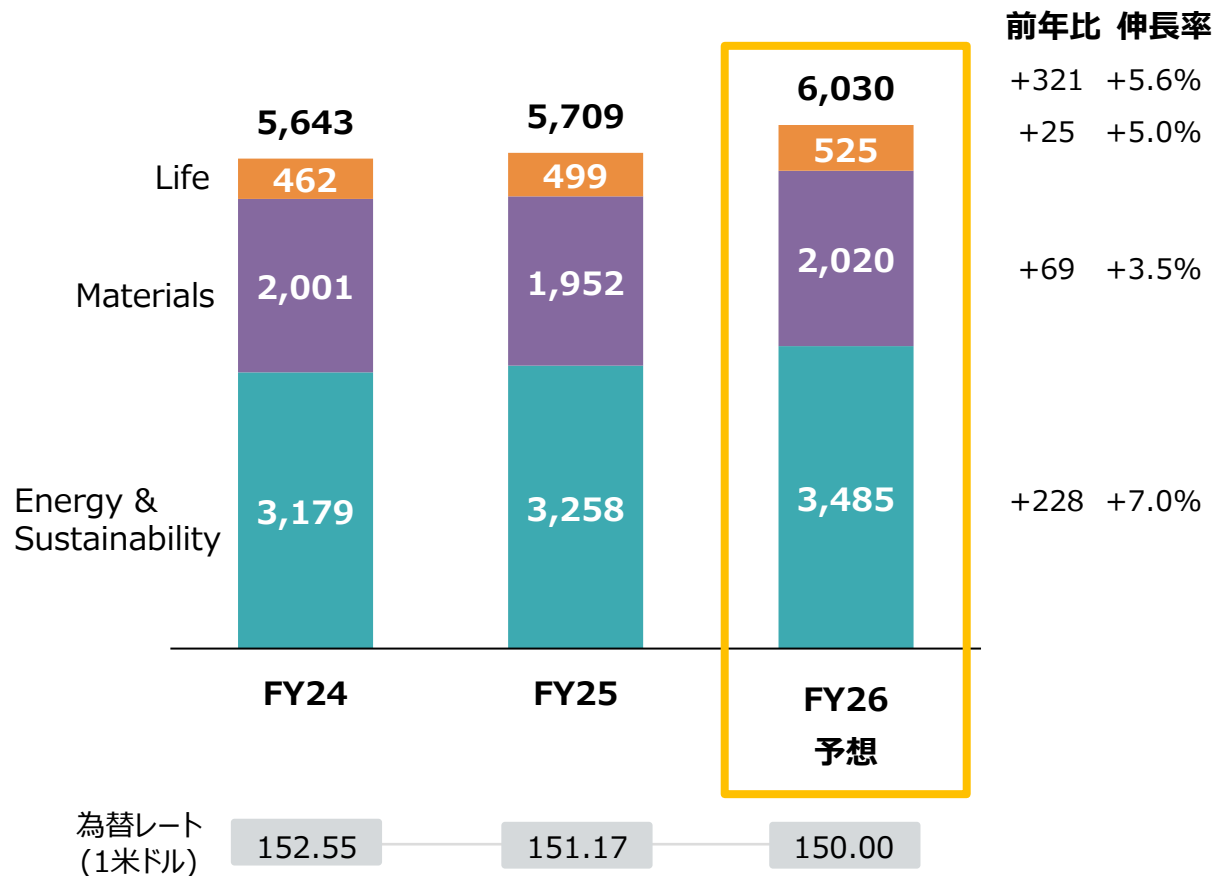
受注高	FY25 (A)	FY26予想 (B)	前年比 (B-A)
日本	1,540	1,510	▲30
アジア	1,661	1,820	+159
（東南アジア・ 極東）	(810)	(870)	(+61)
（中国）	(555)	(590)	(+35)
（インド）	(297)	(360)	(+63)
欧州・CIS	608	615	+7
中東・アフリカ	1,177	1,200	+23
北米	517	620	+103
中南米	205	265	+60
海外小計	4,169	4,520	+351
合計	5,709	6,030	+321
為替レート 1米ドル=	151.17円	150.00円	▲1.17円

(億円)

売上高	FY25 (A)	FY26予想 (B)	前年比 (B-A)
日本	1,515	1,455	▲60
アジア	1,642	1,725	+83
（東南アジア・ 極東）	(798)	(810)	(+11)
（中国）	(567)	(580)	(+13)
（インド）	(277)	(335)	(+58)
欧州・CIS	636	620	▲16
中東・アフリカ	1,153	1,120	▲33
北米	516	590	+74
中南米	193	220	+27
海外小計	4,140	4,275	+135
合計	5,655	5,730	+75
為替レート 1米ドル=	151.17円	150.00円	▲1.17円

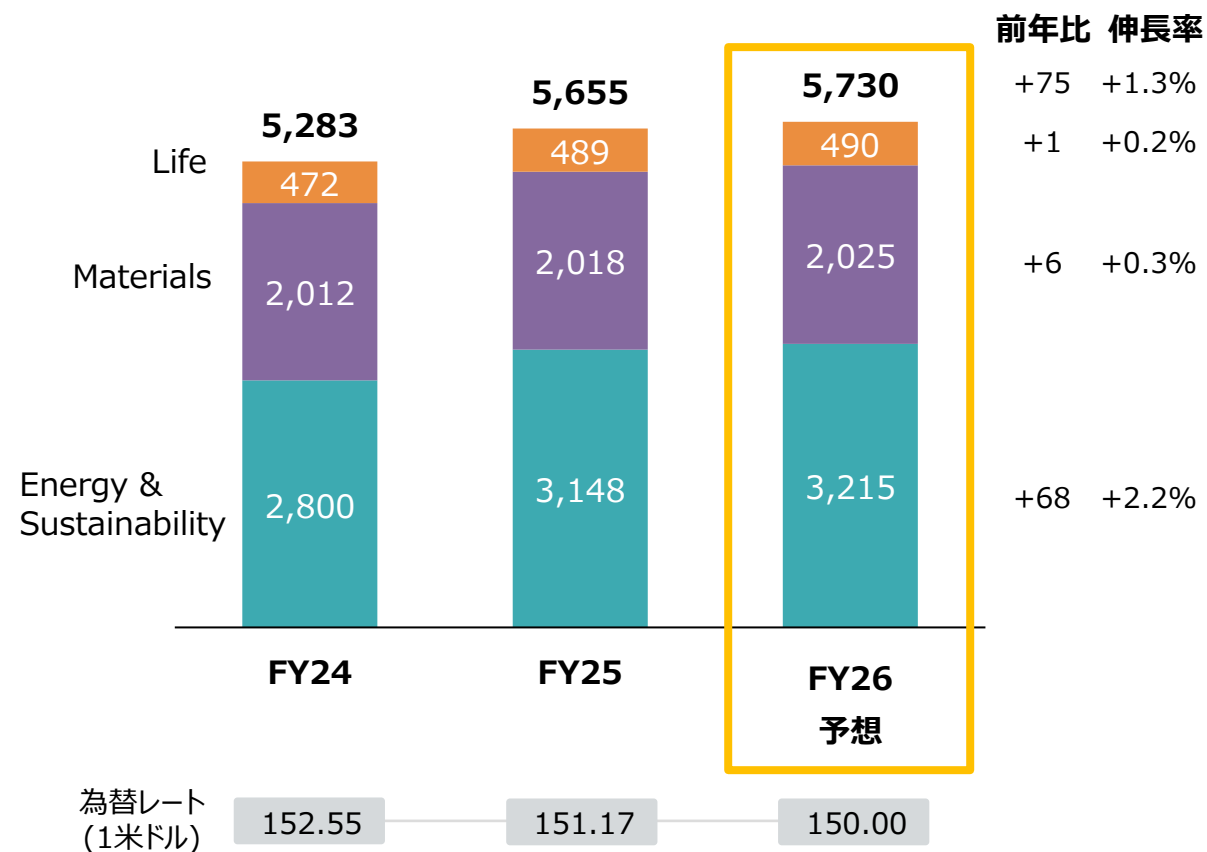
制御サブセグメント別 受注・売上高 予想

受注高



売上高

(億円)

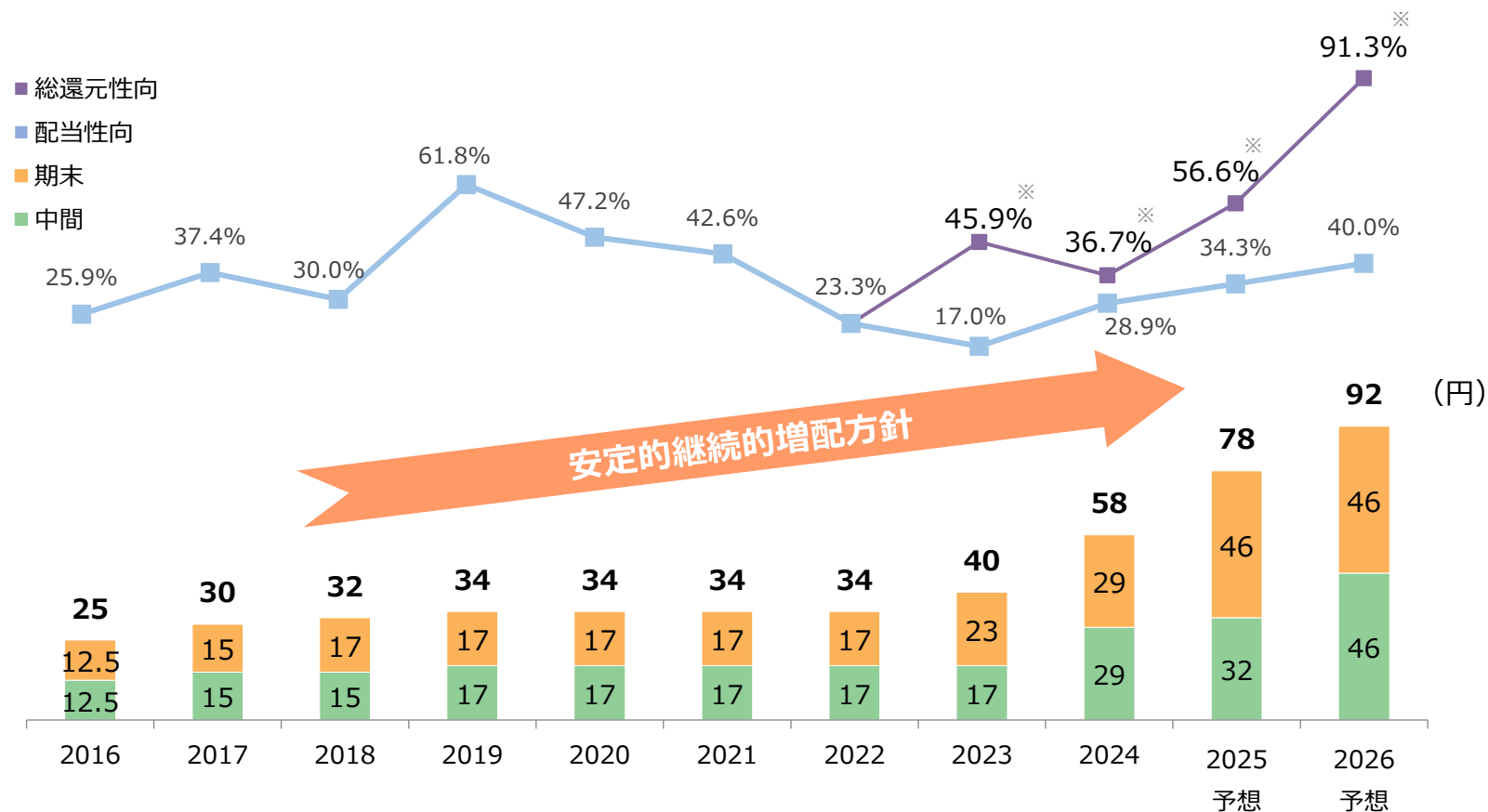


株主還元

◆ 配当予想：FY25 年間配当金78円（前年から20円増額）

FY26 年間配当金92円（前年から14円増額）

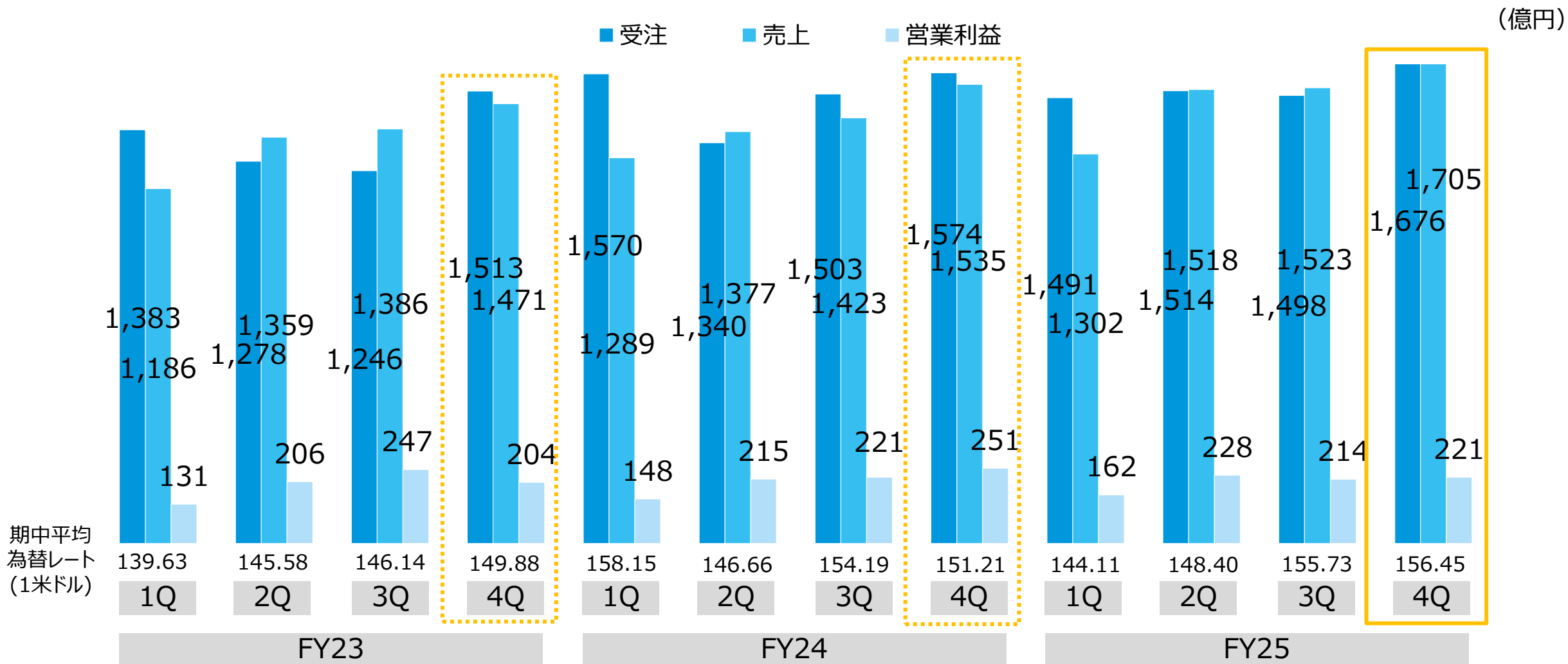
◆ 自己株式の取得を決議：300億円を上限に市場買付により当社普通株式を取得（取得期間：2026年5月8日～2026年9月末）



決算補足資料

- ・四半期別実績
- ・営業外・特別損益
- ・セグメント別受注残推移
- ・制御サブセグメント別受注残推移
- ・制御ビジネス規模別受注高推移
- ・制御ビジネスモデル別受注高推移
- ・研究開発費・減価償却費・設備投資
- ・貸借対照表
- ・株価の状況

補足：四半期別実績



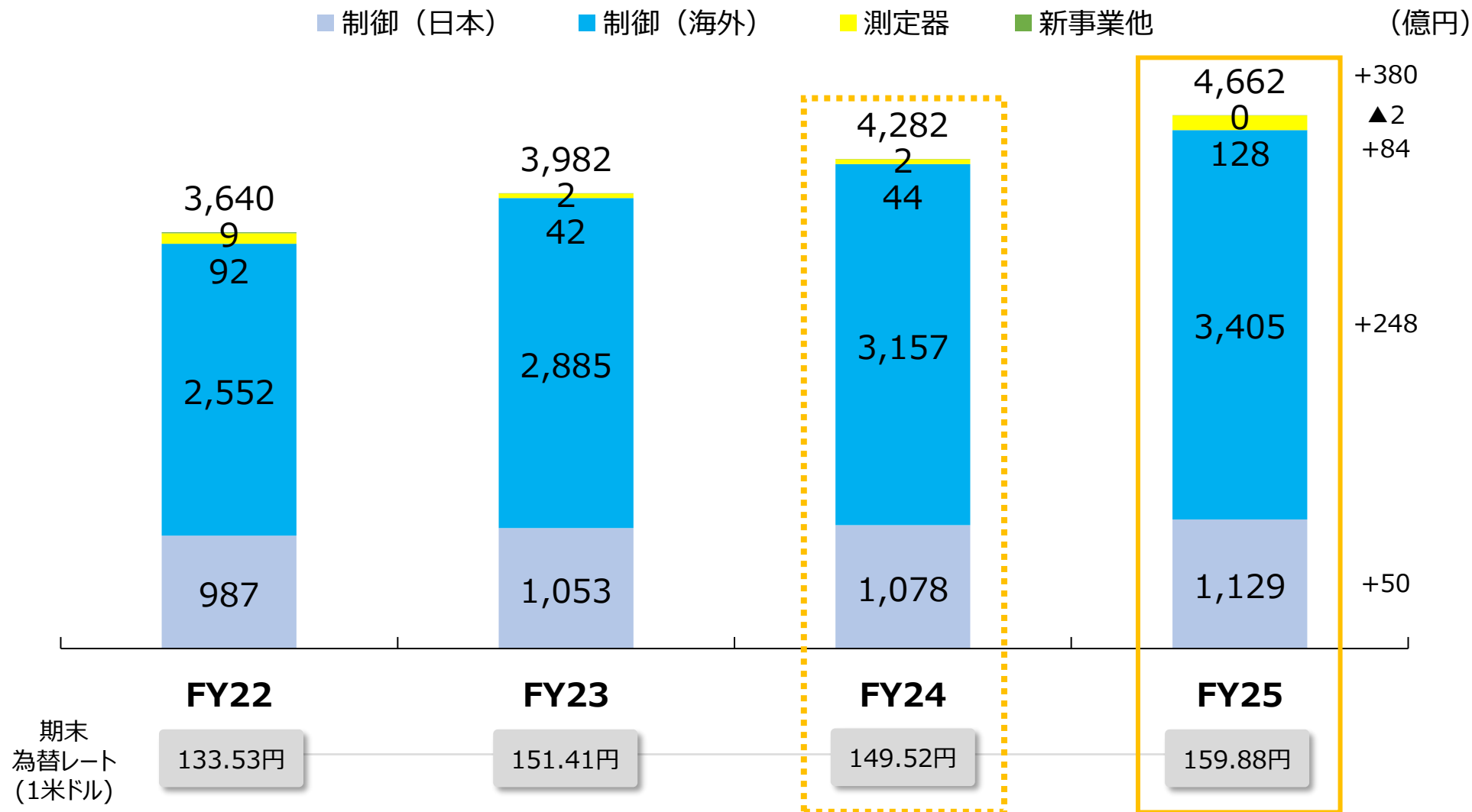
補足：営業外・特別損益

	FY24	FY25	(億円)
営 業 利 益	835	826	
営 業 外 収 益	70	56	
営 業 外 費 用	52	39	
経 常 利 益	854	843	
特 別 利 益	36	11	
特 別 損 失	104	64	
税 引 前 利 益	785	789	
法 人 税 等	233	180	
非支配株主に帰属する 当 期 純 利 益	31	29	
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	521	581	
(税負担率)	29.7%	22.8%	

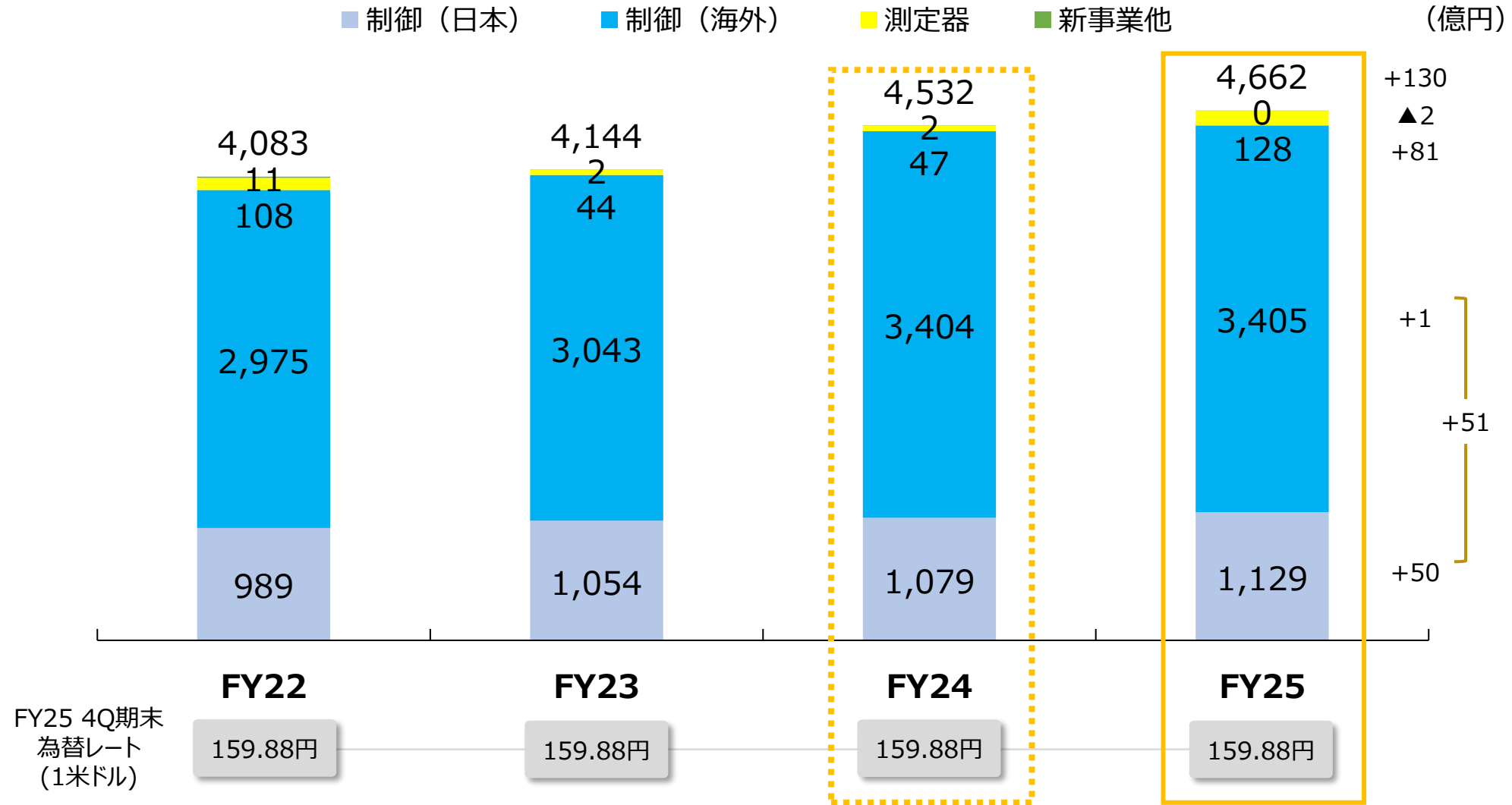
【特別利益】
FY24：固定資産売却益 29

【特別損失】
FY24：減損損失 40

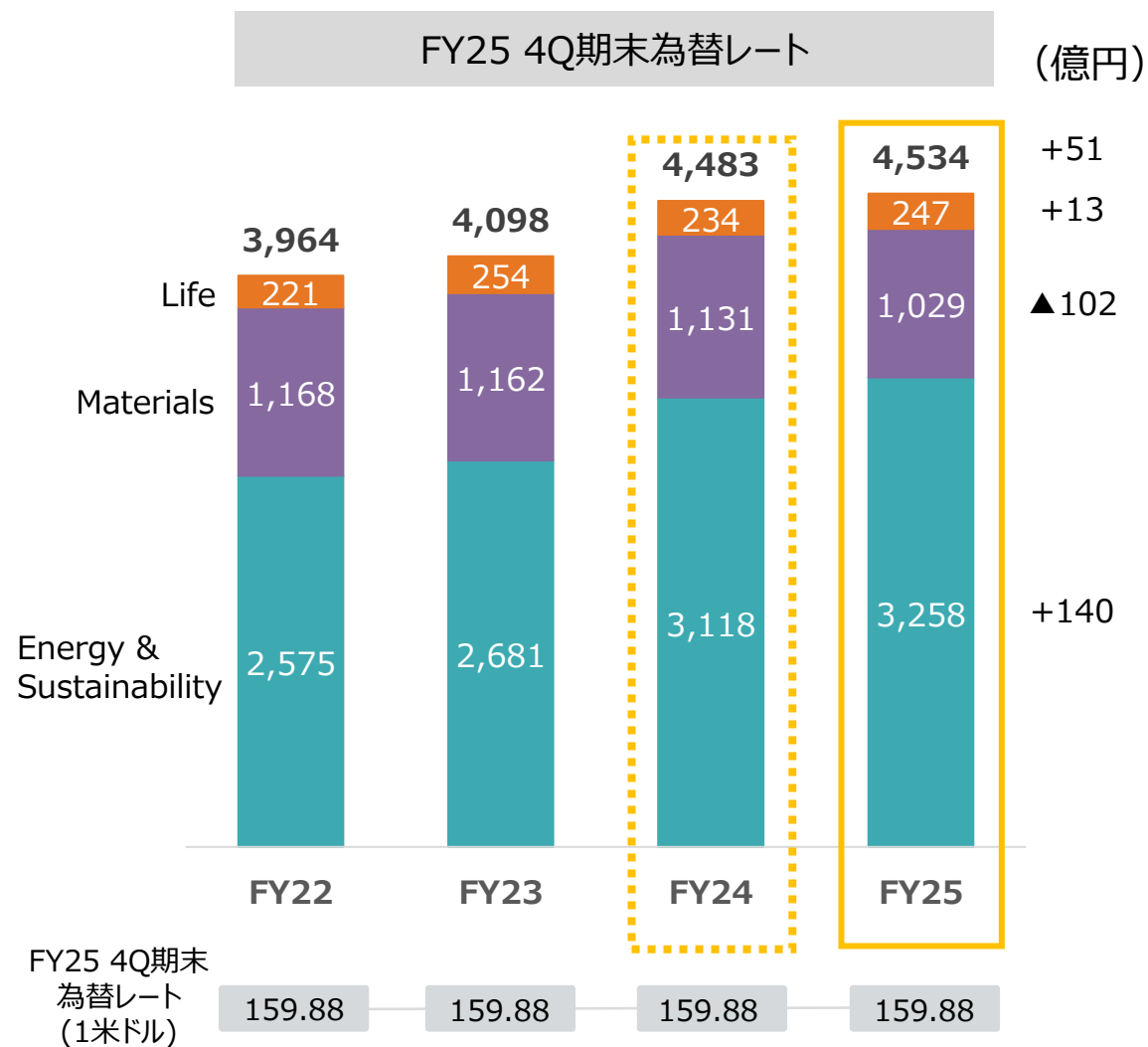
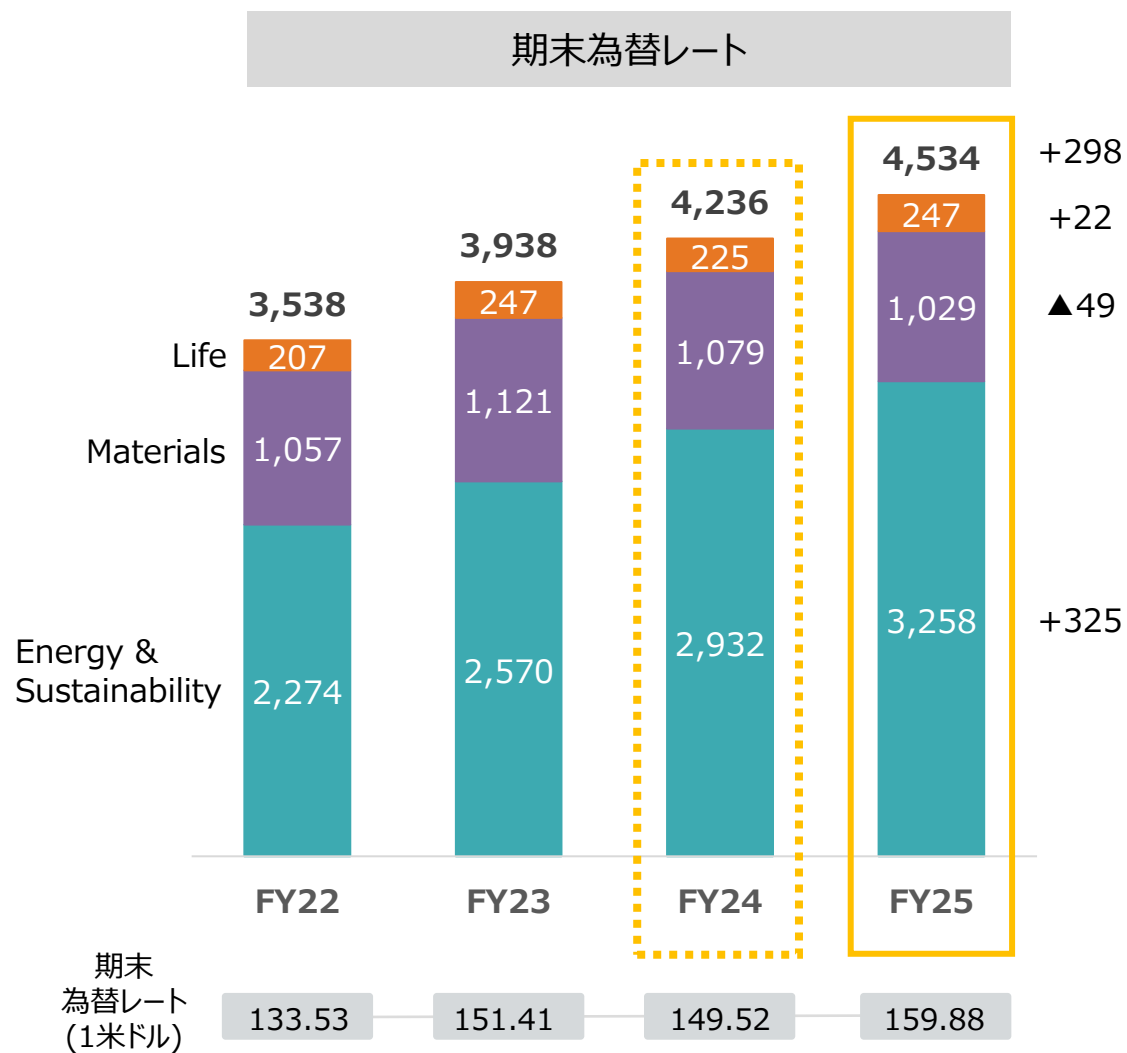
補足：セグメント別 受注残推移



補足：セグメント別 受注残推移 *FY25 4Q期末為替レート換算



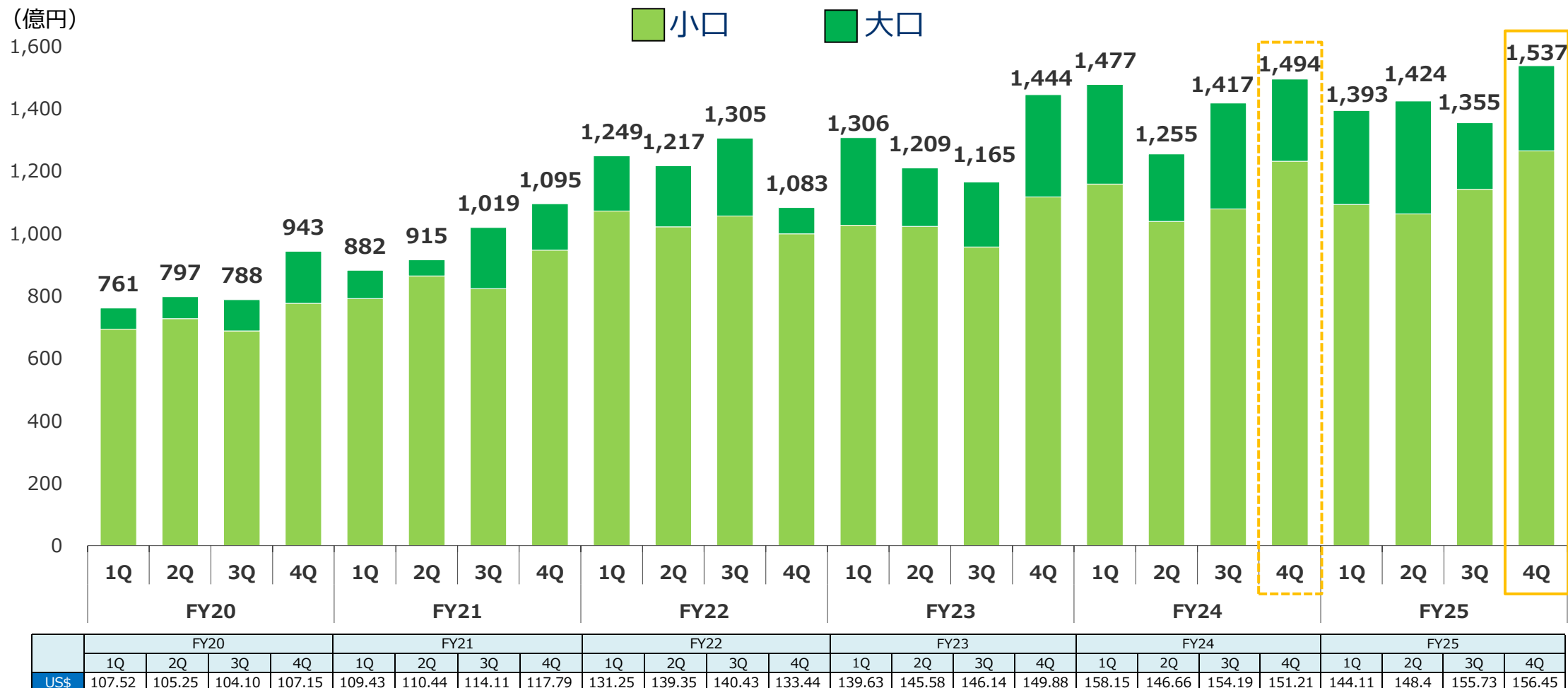
補足：制御サブセグメント別 受注残推移



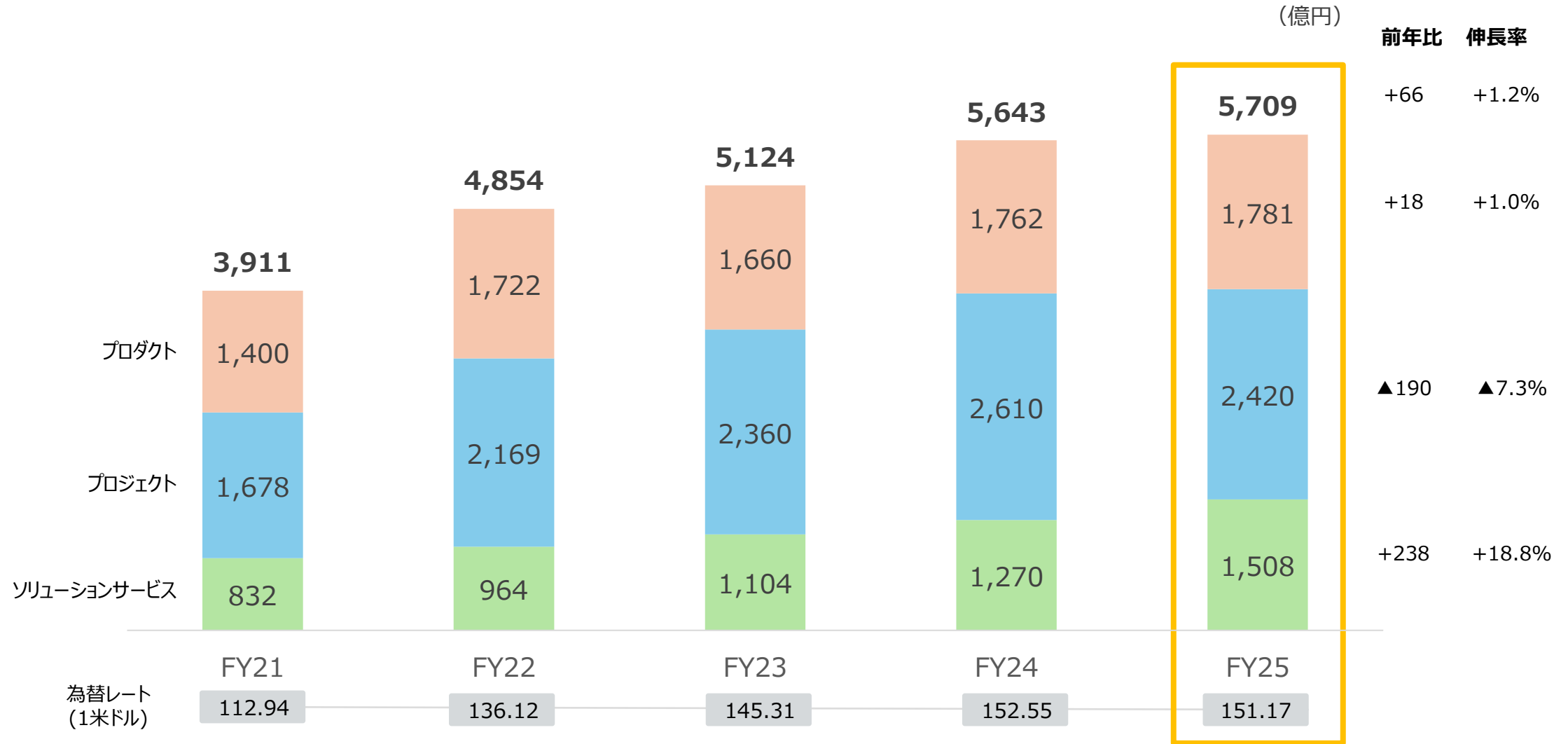
補足：制御ビジネス規模別 受注推移

約 3 億円*以上の大口比率は15-20%程度

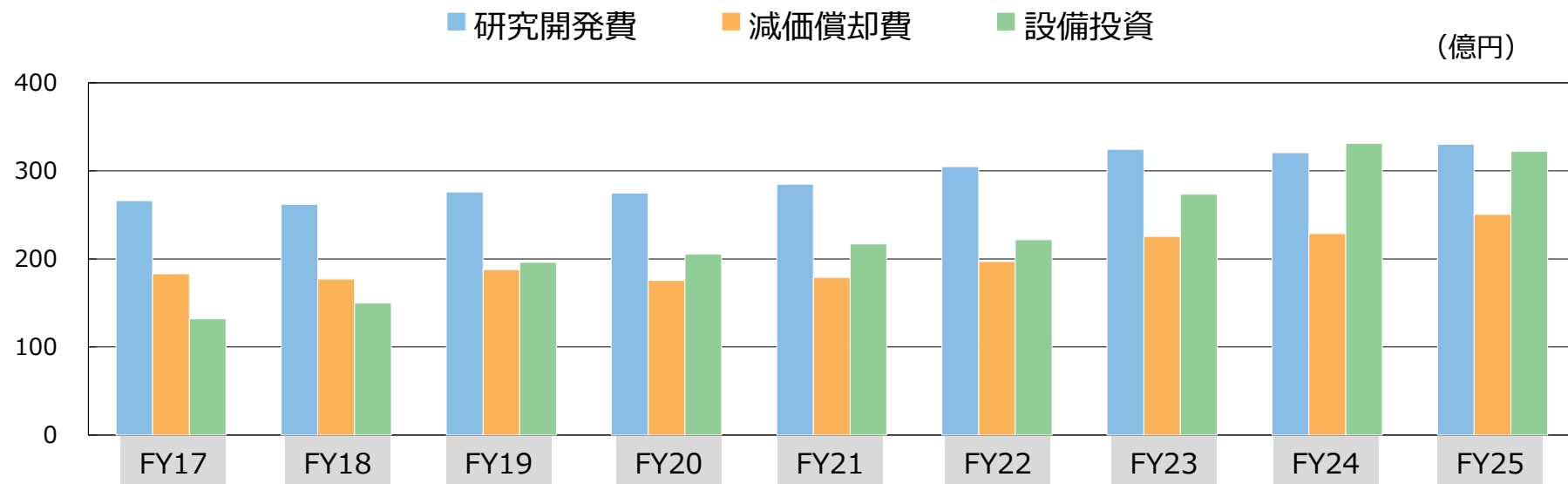
* 3MUS\$



補足：制御ビジネスモデル別 受注高推移



補足：研究開発費・減価償却費・設備投資

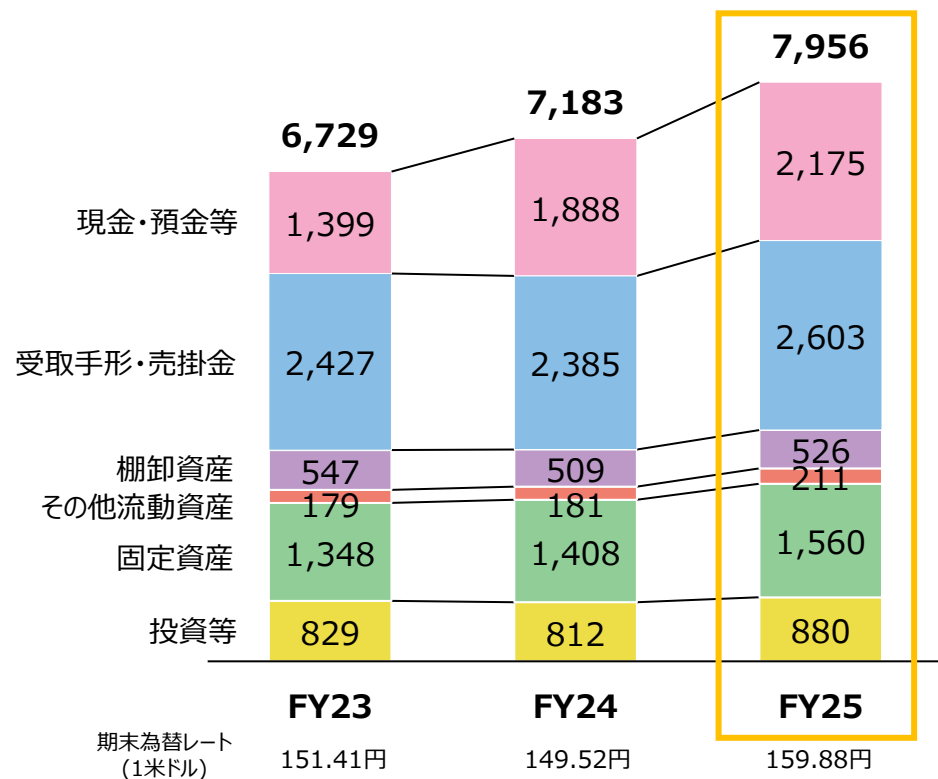


	FY17	FY18	FY19	FY20	FY21	FY22	FY23	FY24	FY25
研究開発費 (対売上高比率)	266 6.5%	262 6.5%	276 6.8%	275 7.3%	285 7.3%	305 6.7%	324 6.0%	321 5.7%	330 5.5%
減価償却費 (対売上高比率)	183 4.5%	177 4.4%	188 4.6%	176 4.7%	179 4.6%	197 4.3%	226 4.2%	229 4.1%	250 4.1%
設備投資 (対売上高比率)	132 3.2%	150 3.7%	※ 196 4.9%	206 5.5%	217 5.6%	222 4.9%	274 5.1%	331 5.9%	322 5.3%

※FY19よりIFRS第16号（リース）を適用

補足：貸借対照表

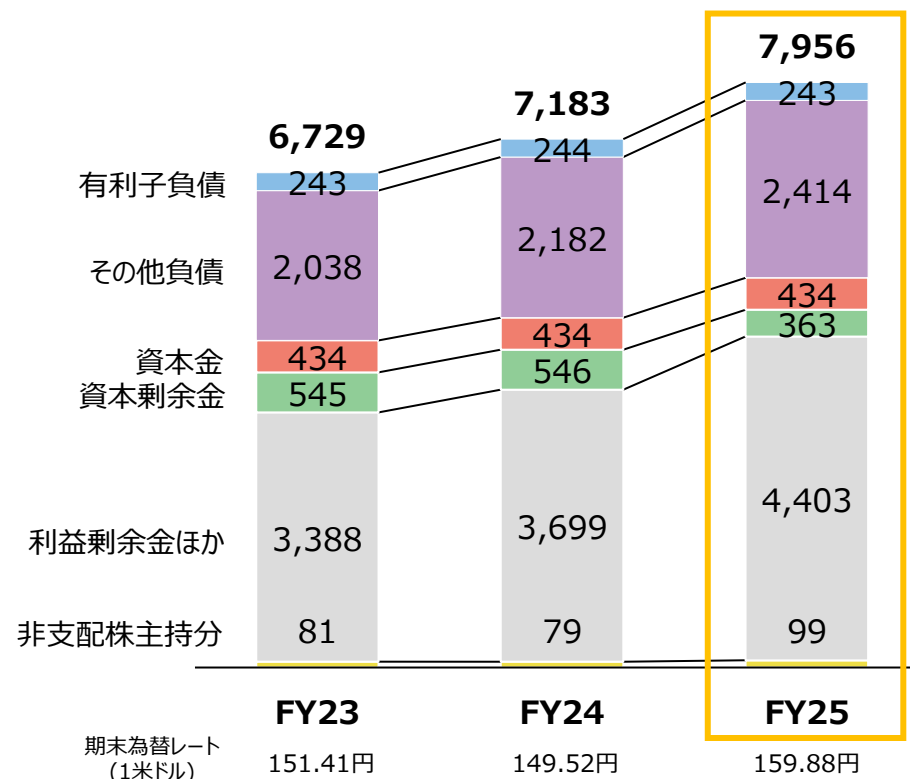
資産



	FY23	FY24	FY25
総資本利益率(ROA)	9.6%	7.5%	7.7%
自己資本利益率(ROE)	15.1%	11.5%	11.8%
総資産回転率	0.84	0.81	0.80

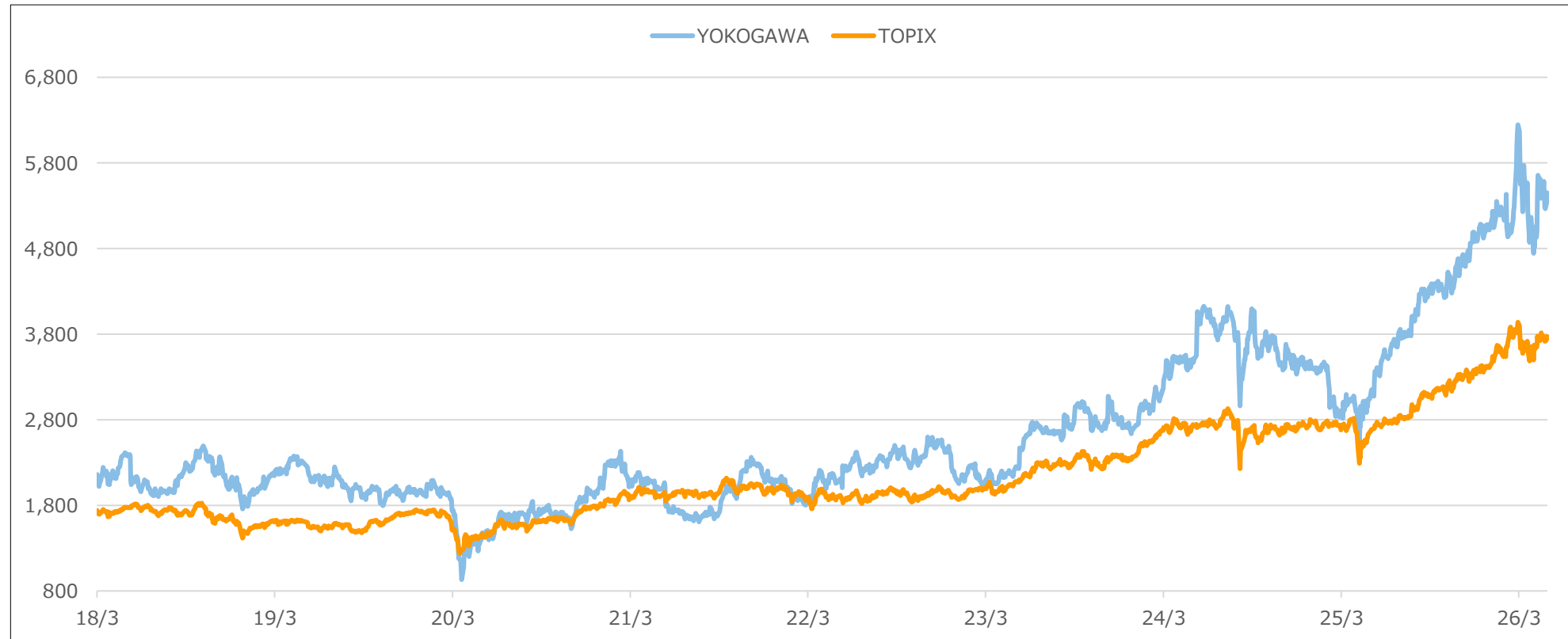
負債・資本

(億円)



	FY23	FY24	FY25
D/E レシオ	5.6%	5.2%	4.7%
自己資本比率	64.9%	65.1%	65.4%
一株当たり純資産(BPS)	1,678円	1,807円	2,042円

ご参考：株価の状況



(¥)

	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12	26/3	26/4/28
YOKOGAWA	2,198	2,291	1,303	2,038	2,099	2,150	3,494	3,890	3,655	3,398	2,893	3,855	4,255	5,016	4,744	5,450
TOPIX	1,716	1,592	1,403	1,954	1,946	2,004	2,769	2,810	2,646	2,785	2,659	2,853	3,138	3,409	3,498	3,772

2026年3月期 決算説明会

GS2028達成に向けた取り組み

重野 邦正

取締役 代表執行役社長

2026年5月7日

中東情勢の緊迫化に伴う短期的な遅延・コスト上昇懸念は残る一方、 エネルギー需要を背景にお客様の投資意欲は継続

地域

中東：情勢緊迫化の影響は注視が必要も、DXソリューション需要は継続 **インド**：競争は厳しい一方で、インフラ投資が活発
北米：物価上昇による景気減速懸念は残るも、LNG・シェールオイル関連投資の活発化期待 **中国**：景気低迷が継続、不安定な状況が続く
欧州・東南アジア：高まるエネルギー多角化需要、CCS/CCUS投資への期待 **日本**：安心・安全、生産性向上投資が引き続き堅調

業種

Upstream・Downstream：一時的な事業遅延の可能性はあるものの、中長期ガス需要は継続。AI・セキュリティ・省人化等のDX投資も活発。

Renewable：欧州を中心に成長が加速。ベース電源として原子力に再脚光の一方、従来型発電も投資継続の動き

Water：人口増加を背景に水需要は長期的に堅調。海水淡水化や上下水道の広域管理への投資、水リサイクルに向けた取り組み等が活発化

Chemical：高機能化学市場の広がりの中でAIデータセンターなどへの投資が継続的に拡大。ナフサ調達環境の悪化による稼働率低下が懸念

Mining：銅やレアメタルの需要が継続。食料需要を背景にリン鉱石の需要増継続の一方で、EV需要には停滞感。物流・エネルギーコスト上昇が懸念

Pharma, Food & Beverage：バイオ医薬品市場の拡大、データ完全性確保のためのソリューションの引合が増加。人口増加等により食糧需要も増加継続

リスク

- ・中東を中心とする国際情勢の不安定化
- ・インフレ、関税政策による採算性悪化
- ・為替相場の急激な変動

海外売上高比率

FY24	74.4%
FY25	73.3%



中東情勢の緊迫化がYOKOGAWAに与える影響

2026

中東地域での影響

- 従業員およびその家族の安全を確認
- FY25も好調継続、紛争の影響は大きい
- 進行中案件が一時停滞したが、動き始めた
- 現時点ではまだFY26以降のパイプラインへの影響は見られないが、注視していく

中東域外の事業への影響

- サプライチェーンの不透明化、原材料調達難に伴う、コスト高騰、投資決定の遅延の懸念
- 代替調達の動き活発、LNGなどの生産加速など、新たな投資機会

2027

2028

2030

今後の見込み

- 中東の地力は棄損されておらず、情勢の落ち着きを待って投資は回復
- Cyber SecurityやAIなど、プラントのレジリエンスを高めるDX投資意欲は旺盛
- 世界中でエネルギーサプライチェーンの再構築、強靱化に向けた投資機会
- エネルギー安全保障に伴う投資拡大・多様化
再生可能エネルギー、原子力、LNGへの投資
- 原油価格の安定化による、化石燃料への投資意欲回復

GS2028 指標・目標値

■ 事業成長目標 (5年平均)		FY24 実績	FY25 実績	FY26 業績予想	FY24~25 期間	FY24~26 期間
受注高成長	10%/年以上	10.4% (7.8)	3.2% (2.4)	4.4% (5.2)	6.8% (5.1)	6.0% (5.1)
売上高成長	10%/年以上	4.1% (1.9)	7.5% (6.9)	1.7% (2.2)	5.8% (4.3)	4.4% (3.6)
ROS	15%以上	14.9% (13.3)	13.6% (12.4)	13.8% (12.8)	-	-

■ セグメント別受注高成長率目標 (5年平均)

制御事業	10%/年以上	10.1% (7.5)	1.2% (0.4)	5.6% (6.3)	5.6% (3.9)	5.6% (4.7)
Energy & Sustainability	10%/年以上	18.9% (16.2)	2.5% (1.4)	7.0% (7.9)	10.4% (8.5)	9.2% (8.3)
Materials	10%/年以上	0.1% (▲2.5)	▲2.5% (▲2.7)	3.5% (3.9)	▲1.2% (▲2.6)	0.3% (▲0.5)
Life	15%/年以上	2.4% (1.4)	8.1% (6.8)	5.2% (5.1)	5.2% (4.1)	5.2% (4.4)
測定器	12%/年以上	16.9% (13.6)	38.5% (37.0)	▲7.1% (▲6.1)	27.3% (24.8)	14.6% (13.5)

為替レート
1米ドル=

GS2028計画
130円

FY24実勢
152.55円

FY25実勢
151.17円

FY26予想
150円

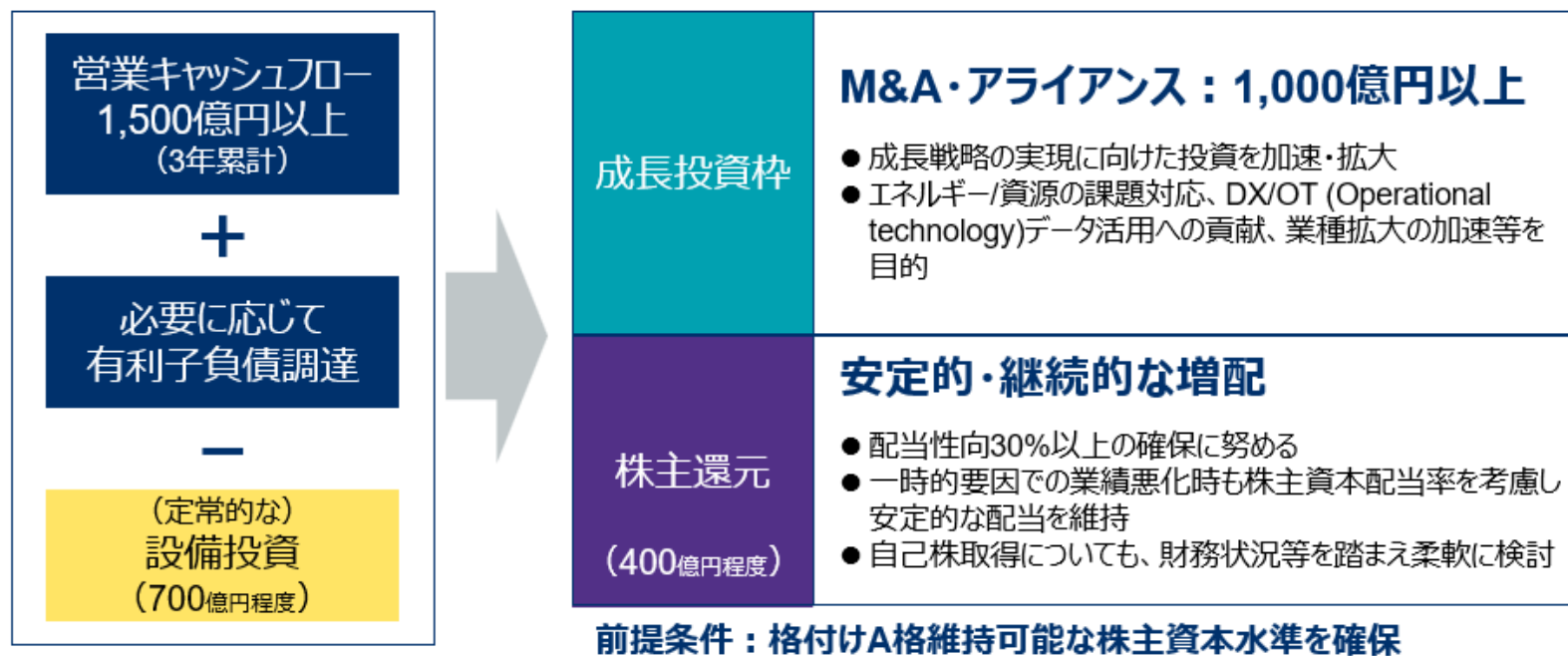
■ 財務目標		FY24 実績	FY25 実績
ROE	10%以上	11.5%	11.8%
財務ROIC※	10%以上	12.9%	11.7%
EPS	300円以上 (FY28)	200.41円	227.72円
営業キャッシュ・フロー	3,000億円以上 (5年累計)	990 (単年度)	860 (単年度)

※カッコ内の数値はGS2028レートベース

※財務ROIC：{営業利益×(1-法人税等負担率25%)}÷投下資本(期首・期末平均)

資本政策・財務戦略

- 成長投資実績：約178億円 (FY24-25累計)
- 株主還元：FY25年間配当金を20円増額し78円するとともに、総額171億円の自己株式取得を完了
FY26も300億円を上限とする自己株式取得を予定
- 「**中長期的な企業価値の向上および最大化に向けた投資に優先的に配分**」し、積極的な配当などによる株主還元の向上を図る方針に変更なし。成長戦略実現に向けた投資を加速する。
＜初年度からの3年間（2024年度～2026年度）＞



【FY24-25成長投資実績】 約178億円

＜主な案件＞

- BaxEnergy買収 2024年6月（買収後増資含む）
- Web Synergies買収 2025年5月
- Intellisync買収 2025年10月（BaxEnergyへ統合済）
- WiSNAM買収 2025年10月（BaxEnergyへ統合済）

【配当予想】

FY25年間配当金 **78円**（前年から20円増額）

FY26年間配当金 **92円**（前年から14円増額）

【自己株式取得】

2025年3月5日～12月末日 **171億円**

2026年5月8日～9月末日(予定) **300億円**を上限

GS2028の4つの基本戦略と強化施策

System of Systemsの
信頼されるパートナーとしての価値提供

フロント機能の強化

1

ライフサイクル視点の強化

3

技術のYOKOGAWA

無形資本の活用・育成による価値創造

業種対応力の強化と
特定業種へ依存しないビジネスの拡大

お客様視点のビジネス創出
Center of Excellenceの強化
Local Manufacturingの拡大

2

戦略的インストールベースの拡大
お客様のレピュテーション向上
OPEXにおける付加価値提案

4

CTOの設置と未来ポートフォリオ
製品競争力の強化
ミッシングピースの獲得

経営・事業基盤の強化

取り組み事例①：プラント自律制御AIソリューションの採用実績の増加

1

System of Systemsの信頼されるパートナーとしての価値提供

FKDPP*を活用した自律制御AIソリューションの実プラントへの適用が拡大中

Saudi Aramco
(サウジアラビア)



サウジアラムコのファディリ・ガスプラント
(写真提供：サウジアラムコ)

複数の大手石油企業
(中東諸国)



写真はイメージ

Braskem
(ブラジル)



Braskemの塩化ビニルモノマープラント
(写真提供：Braskem)

Global Center of Excellence
for AI, Robotics, and Cybersecurity
(サウジアラビア)



*FKDPP: Factorial Kernel Dynamic Policy Programming。横河電機と奈良先端科学技術大学院大学が共同開発したアルゴリズム

取り組み事例②：ビジネス拡大へ向けた提供価値の強化

2

業種対応力の強化と特定業種へ依存しないビジネスの拡大

再生可能エネルギー、原子力など、エネルギー安全保障への貢献



- FY24にBaxEnergyを買収。FY25にさらに2社を取得し、統合
- そのソリューションが、コスモエコパワーの風力発電所に採用
- Tesla製蓄電池を含む、設備導入から運用までを包括的にサポート

島牧・黒松内ウインドファーム建設予定地
(写真提供：コスモエコパワー株式会社)

- Rolls-Royce SMRの小型モジュール炉プログラム向け、データ処理・制御システム（DPCS）を提供する戦略的協業契約を締結
- 制御システムの設計、エンジニアリング、検証および認証、ハードウェア、システム構築および試験、設置・試運転などに参画

SMR：Small Modular Reactor 小型モジュール炉



取り組み事例③：CTO（Chief Technology Officer）の設置

3

無形資本の活用・育成による価値創造

技術経営をリードし、「技術のYOKOGAWA」として次の成長曲線を描く

“今”のマネジメント

事業部で技術マネジメントを運用しつつ、CTOが全体統括

足場固めは完了

- CTO主導で課題製品を整理、統廃合
- 保有技術の可視化、技術マネジメント規定と体制の構築

“未来”の成長を生み出すデザイン

市場の変化を先取りし、既存事業高度化＋非連続な成長

全社中長期技術戦略

商材
ポートフォリオ

技術
ポートフォリオ

技術人財
ポートフォリオ

技術基盤

YOKOGAWAの技術が、産業の未来をどう変えるかを示し、
お客様のロードマップ上に

経営/投資判断ツールに

次の成長曲線を見据えた経営・投資判断が可能になり、
勝てる技術に集中

技術ビジョンとして对外発信

取り組み事例④：収益性改善による強い経営基盤の確立



経営・事業基盤の強化

組織・機能変革を強力に推進し、成長を加速するオペレーションを実現

業務・体質を見直す またとない機会の到来

- 不確実性の高く、複雑に絡み合う世界情勢
- ベテラン人財の大量退職、技術伝承の課題
- 労働人口の減少、若手後継者不足
- 世の中の変化の速さ、生成AIに代表される技術革新

具体的な効果が出るところ に強い統制をもって改革

- 業務の断捨離、重複の見直し、シェアードサービス化
- AI活用による効率化、ナレッジマネジメント
- グローバルサプライチェーンの最適化、調達・物流コスト削減
- 間接支出のガバナンス強化
- 集中生産とローカル生産の最適バランス

“新しいリアリティ”の実現

- 「今の延長線」からの脱却、ゼロリセットで考えられる体質
- 常に最新技術を最大活用する姿勢
- 業務の自律化、ヒトとAIの共生・適材適所
- さらに複雑性が高い社会課題への挑戦



CAPEX × インド

競争はし烈だが、インフラ投資が活況
「インドで勝てる力」を新興国に展開



測定器ビジネス × グローバル

FY25は大幅成長、製品競争力は実証済
グローバル展開の更なる強化



AI × OT領域

FKDPPの事例に反響多数
安全・安心含むトータルソリューションに強み



OPEX × 欧州・東南アジア

関係良好なインストールベースが豊富
ソリューション・サービスによる付加価値提案

測る力とつなぐ力で、 地球の未来に責任を果たす。

**Utilizing our ability to measure and connect,
we fulfill our responsibilities for the future
of our planet.**

「測る」は、YOKOGAWAの原点であり起点です。ものごとを測り、今ある状態をとらえ、見通し、そこから導き出される情報に価値を見出してきました。また「つなぐ」は、YOKOGAWAが価値ある情報を結びつけるだけではなく、さまざまな産業におけるお客様との信頼関係を築き、企業と企業、産業と産業の結束点となって、さらに価値を共鳴させていくことを意味しています。

「測る力とつなぐ力」はYOKOGAWAが決して失うことのないコアコンピタンスです。その力を今日の社会課題の解決に生かし、人と地球が共生する未来をかなえたい、そうした思いを「地球の未来に責任を果たす」というコミットに込めました。

参考資料

- ・トピックス
- ・採用されているESG関連インデックスなど

ご参考：FY25 トピックス（提携・買収／受注／研究開発）

提携・買収

※日付は発表月です
※詳細はウェブサイトをご覧ください <https://www.yokogawa.co.jp/news/>

- 4月 ITとIT/OT統合ソリューションを提供するWeb Synergies社を買収
- 6月 精工集団と包括的な戦略的協業契約を締結
- 10月 シノバックエンジニアリングとグローバルEPCプロジェクトに関する協力覚書を締結
IntellisyncとWiSNAMを買収し、サイバーセキュリティおよびグリッド管理ソリューションの提案力を強化
～再生可能エネルギーと脱炭素化に向けたデジタルハブの構築～
- 2月 Rolls-Royce SMR と、小型モジュール炉向けデータ処理・制御システムで協業
ANYbotics、OpreX Robot Management CoreとANYmal 点検ロボットを統合し、次世代の自動化ソリューションを加速

受注

- 9月 トヨタ自動車と有人と圧ローバー向け制御プラットフォームなどの研究開発契約を締結
～持続的な月面探査への挑戦に貢献～
- 10月 サウジアラビアの首都緑化プロジェクト「グリーン・リヤド」に首都インフラを統合管理するシステムを提供
～世界有数の住みやすい都市へと変革する国家プロジェクトに貢献～
- 3月 コスモエコパワーの北海道の風力発電所向けにパワープラントコントローラおよび蓄電池を提供
～系統安定化と地域の長期的な電力供給に貢献～

研究開発

- 9月 AIによる温度設定計画で京都の地ビールの発酵工程を最適化する実証実験に成功
～香りも含めた品質を維持したまま、発酵時間を28%短縮～

ご参考：FY25 トピックス（新製品・ソリューション）

※日付は発表月です

※詳細はウェブサイトをご覧ください <https://www.yokogawa.co.jp/news/>

新製品・ソリューション

- 5月 【横河計測】新製品 高速データアキュイジションユニット「SL2000」を開発・発売
- 6月 統合生産制御システム「CENTUM VP」の次世代モデルを発表
～世界初の分散形制御システムの発表から50周年 幅広い技術を統合して安全安心でサステナブルな自律操業を実現するCENTUMへ～
プラントメンテナンス向けロボットとAI技術に関してシェルと協業
～設備の健全性管理における業務の合理化とリスクの軽減に向けて～
- 8月 匠の思考プロセスを再現するYOKOGAWAの荷積み計画AIが計画立案作業を大幅に短縮
～積み方の制約、届け先の荷下ろし場や働く人への配慮も含めて最適化～
サウジアラムコと横河電機が大規模ガス製造プラントに相互に連携する複数の自律制御AIを導入
～酸性ガス除去ユニットの運用最適化に成功し、エネルギーと化学物質の使用量を削減～
- 1月 【オメガシミュレーション】ダイナミック・デジタルツイン・プラットフォーム「OmegaLand（オメガランド） V4」を発売
～制御システムとの連携を強化し、プラント操業の自律化に貢献～
- 2月 製造プラント向け予測型排ガス監視システムに関するグローバル販売・サービス契約をCMC Solutionsと締結
- 差圧・圧力伝送器の新製品「OpreX Pressure Transmitter EJX Sシリーズ」を開発・発売



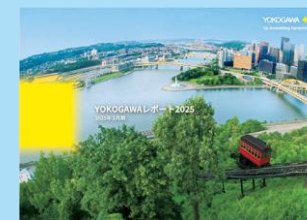
差圧・圧力伝送器「OpreX Pressure Transmitter EJX Sシリーズ」

ご参考：FY25 トピックス（その他）

その他

※日付は発表月です
※詳細はウェブサイトをご覧ください <https://www.yokogawa.co.jp/news/>

- 4月 YOKOGAWAグループのAIポリシーおよびグループAIガバナンス規程を策定
- 6月 分散形制御システム「CENTUM」誕生50周年を迎える：パイオニア精神の成果
「インベスターズガイド2025」を発行
- 8月 Verdantix社、アセットパフォーマンス管理ソフトウェアにおける「リーダー」と横河電機を評価
- 9月 製品ライフサイクルにおけるサステナビリティ指針「Trusted Green」を策定
- 10月 「YOKOGAWAレポート2025」および「YOKOGAWAサステナビリティレポート2025」を発行
- 1月 横河電機がOpen Invention Network 2.0に初期メンバーとして加入
- 3月 Congo Children TrustおよびKumi Foundationと、コンゴ民主共和国の鉱山地域における子どもたちに対する教育および保護に関する覚書を締結



YOKOGAWAレポート



サステナビリティレポート

ご参考：YOKOGAWAが採用されているESG関連インデックスなど

2026年4月現在

Dow Jones Best-in-Class Asia Pacific Index
FTSE4Good Index Series
FTSE JPX Blossom Japan Index
FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index
MSCI ESG Ratings AAA
MSCI Selection Indexes
MSCIジャパンESG セレクト・リーダーズ指数
MSCI 日本株 女性活躍指数
ISS ESG - ESG コーポレートレーティング Prime
Sustainalytics Top-Rated ESG Regional Performer
CDP気候変動・水セキュリティ Aリスト
CDPサプライヤー・エンゲージメント・リーダー
SNAMサステナビリティ・インデックス
S&P/JPXカーボンエフィシエント指数
EcoVadis サステナビリティ調査 ゴールド
Morningstar 日本株式ジェンダー・ダイバーシティ・ティルト指数（除くREIT）



2025 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

2025 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)



FTSE4Good



FTSE JPX Blossom
Japan Index



FTSE JPX Blossom
Japan Sector
Relative Index



ESGインデックス、社外からの評価の詳細につきましては、当社ウェブサイトをご参照ください。
<https://www.yokogawa.co.jp/about/ir/>

本資料およびアナリスト説明会で提供する情報のうち業績見通し及び事業計画等に関するものは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいています。

従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

当社がこの資料を発行した後は、適用法令の用件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

本資料の著作権は当社に帰属し、当社の事前の承諾なく複製または転用すること等を禁じます。

また、本資料には企業連結に係る暫定的な会計処理の確定に伴う過年度遡及修正を反映しておりません。
(決算短信とは軽微な相違があります)

横河電機株式会社

財務・IR部

Email : Yokogawa_Electric_IR6841@cs.jp.yokogawa.com

TEL : 0422-52-6845

URL : <https://www.yokogawa.co.jp/about/ir/>

Co-innovating tomorrow™